



續風土記 自八至十

甲子五拾号 共廿八

共十四册

ル 4
 375
 4



門 375
號 4
卷

筑前國續風土記卷之八

御笠郡 下目錄



天判山	乙金	衣掛天神	水城	白川	水城	御笠森
塔原	天判山	龍王瀑布	漆川	龍王瀑布	外萱園	蘆城 <small>野山</small>
紹運塚	紫村	荒槐明神社	龍宮村	荒槐明神社	城山	續命院
	天山	牛頭村	雜餉隈	牛頭村	原田村	九郎天神
	紫村	武藏寺	中村	武藏寺	筒井村	湯所
	針磨	二市 <small>森</small>	龍王瀑布	二市 <small>森</small>	筒井村	平等寺村
	針磨		天山		筒井村	
	針磨		紫村		筒井村	

八尋七音海
新書



片野
小鍋

山家
山家牧

御水瀑布

大鍋

筑前國筑風土記卷之八

筑前國續風土記卷之八

御笠郡

水城

日記と考ふるに 天智天皇三年筑前守と於て大堤
と築て水と貯め名つけて水城といふなりと云ふなり是太
宰府の要害れといふに築せしむるありし 稱徳天
皇天平神護元年太宰少貳采女躬長淨庭と水城
と修程する專智官とせしむるいと淡日記と云ふなり
今も堤と云ふなり東に堤百五十間西の堤二百二十
三間東に堤百間とて堤を築て一西中り堤を築て
盤二千七百何道の時やもろん堤の内は田とありて水

とたつてす東海の方地をさしあう所のこゝに流る
流し世々難い所を大堤を築きしむりて大路の節に
門防もやちりり礎尚残せりる所の國といふはけは
けりるへー

万葉集に男と女との水葦のこゝの城のうへに田城し大伴御
朝臣とてえつぎにぬれはとふつじのつ出ぬらん後村
くもすけすじとあひて城なりやまゝに建てて三つを長房

水城園

天智天皇三年筑前守
岩をれを城の守としむりて向ふ中れりてとるなりとて人々を遠
河書しけりといはれりてまるまる府に入る日水城の園と山城
府官をといはれりてありけることありてとるなりとて水城を大堤を

いりの山際と突れあはるとちあり礎を築きしむりて即今の
大道に一説にみ城の美肥前とよとて大堤ありそを
右宰府に入る日乃をさき肥前とゆひてまやうは日
府に入る日右宰れわ武府官をといひてとるなりとて
地りる事といふは

又本々もやまをりてん岩地のこゝに書れりてみも通るは 先後

外宣園

通在聖村の境内宰府仕還のそれがこゝにこゝに流る
せり 天智天皇れ時置置しとる事とてこゝに按る
日在元天智とてとる二年對馬嶋を攻め後集の園

あまのつねとよみよと事同らうあるやから宮のま

沖宮森

山田村の境内より難餉隈のひらひらの谷にありて大道は
二丁分ほどひらひら木多くありて茂るる木ありしり今
もひらひら森のありて楠二株あり昔此の木の
ある楠もよむれつらあるは方二間ほどを隔ちてあり
とありてあり 神切皇后羽白熊籠と討んとて 宇麻
の宮より松の峽乃ちありて移りありて 沖宮と飄風
れとありて吹流るるもあひいありてかたをわたりて沖宮の森
とありてとあり昔ちい森のありて 神切皇后の沖宮と

四極の大晦日の夜ハ村中の婦女もそ沖社へ籠りて
夜とありてとありて活幕は熱かまもてかめりあり
お母きうとありてやとありてとありてとありて
とありて熱を敷りたりとありてとありてとありて
つとありてとありて言とありてはこ今ハ社もそあり
ひらひらとありて十六二即天神もそハ難餉隈の東ハ山田乃
新村もそ又昔も此森のありて山田村もそと難餉隈
のひらひらとありてとありて

△新子 大聖なる沖宮は表のゆかりなきだけてありて神の宮ハは吉岡を
おもむきとありてとありてとありてとありてとありてとありてとありて
とありてとありてとありてとありてとありてとありてとありてとありて
とありてとありてとありてとありてとありてとありてとありてとありて

石野行る神皇の表ははらみ神のまににまします

白川

今の宰府に 天神の沖積所の西の邊にありて二日市と近し
後撰集十七卷に 落葉れ白川といふ所に 住たりと大武
彦系與能物居たりとありてはかたき水といふとて
よしてこの住るをいふ成りてはまにありたり

その白川表ははらみ神のまににまします
後撰集と老とてありては白川のまににまします
成りたりと成 大和物居といふとては白川の
まににましますとてはかたき水といふとて

一説に白川の川は後述のまににましますとては白川のまににまします
とてはかたき水といふとては白川のまににましますとてはかたき水
大武乃すかりたりとて水といふとては白川のまににましますと
河とてはかたき水といふとては白川のまににましますとてはかたき水
武小野好古といふとては白川のまににましますとてはかたき水
尋といふとては白川のまににましますとてはかたき水といふとて
よしてこの住るをいふ成りてはまにありたり
移して四圍より右宰府へかけなりと小野好古とて
進んで大宰府より右宰府へかけなりと小野好古とて
其の純友軍やあきて伊豫國へかけなりと史記より好
古は後述のまににましますとては白川のまににましますとてはかたき水

右宰府よりし時の事ありし後撰集より八景系奥記と
 去る物抄より小野好古と記するしつきの説くても太
 宰府より白川ありし八雲沖抄も能前と記する藻
 云々より白川といふ同一名に記するし山城奥州越中
 能前と記する是等抄書より肥後よりといふなり
 又世に記せし大名家に松葉集よりといふ書より白川と
 能前と入ししもの記ありたりし

深川

二日市れ少なる通古記より村の坤の方云々所より深川
 なる記の田記多し深川といふ八雲沖抄もいふに
 記より深川祇振動抄より深川八雲郡深生といふ

ありといふりし事ありしは是なりやと云ふに右宰府より
 名をいふと云ふなり

後
下

名をいふと云ふなり深川乃由すといふなり

城山

右宰府の坤の方山田村の南あり高山あり後坊甲山
 といふいし坊中多しといふなり日記 天智天
 皇四年八月に極城と築せむなりといふ城といふ
 も城といふに名付し城治ありといふ水の池といふ
 といふ南に沖つて肥前必苦父部のといふといふ城も大
 野に城といふと建し寺院と建たりといふやむい
 大なる寺院ありて子院ありといふ信持の多し

事と稱はれ、按るに三代天皇崩す、貞觀八年二月十四日、
太宰府司之命し、城山四王院とおかして、大般若經を
讀しめ、その事よけ、時より既に、信訪をけるありし、但
城山四王院と、城山と四王院とある、その事よ、善八
大城山の四王院と、その事よ、や、あり、大城山と城山と、
別く城山と、別時、寺院と、人信傳も、せ、あり、
歌よけ、まの山と、ま、城の山あり、紀伊、少少の山、
このせ、れ、山と、ま、あり、城、山の外、別、このせ、れ、
する、あ、や、ま、あり、海後、葛井連、このこと、
い、山の太宰府、より、海後、へ、い、る、事、疑、い、
梅、あ、ら、う、し、ら、う、この城、山、と、書、ら、う、つ、大、伴、百、母

右草太宰師大伴卿宅宴梅花歌六首の内
らあり

萬葉集と太宰府大伴卿上系の後、海後、守葛井連
大成、悲歎、作歌一首

今より、城、山、は、名、を、海後、と、い、ひ、
梅、あ、ら、う、し、ら、う、この城、山、の、風、を、衣、ら、う、り、あ、つ、る、

草城野山川

宰府の南、ま、草城の、海後、と、昔、宰府より、都へ
い、馬、次、れ、宿、を、草城、より、海後、と、い、ひ、と、
太宰少貳石川足人朝臣遷任、餞于筑前國草城

家

天地の神とままにけよる枕持の君とありしころまで
むくしけりありきればとてあはれ美代までとてまはりし
あふる路をゆくはあきこのはるを初めて美代とせん
美代は二首他もる詳

芳城山本すあこころをめぐりてめりしころを妹とてせん
太宰師大伴卿被任大納言臨入京乃時府官人
等餞卿筑前芦城驛歌四首内

防人佐大伴四綱

月夜一川音清しとてゆいゆいも思ふも捨てゆえん
うき事と思ひつきの芳城山ふとてこころつむ馬渡ぬらん

おぼけのあまきの川の源とあまのめりたれをたうゆ
ゆきあはれとてゆいゆいとあまの川を水まきとせん

筑紫神社

定長式神名帳に所置郡筑紫神社一座 名神 あり
廿社と系田村とあり 系田村の藩村と筑紫村ありしころ系田
村も筑紫村に内へ後つうして両村とあり
村より少く村をて内と所社をて南と向りしころは
あふる所の神ハ五十猛命あり後世お殿と竈門明神
ともあはれり是所の是所の悪社ありし勤徳とありし
三代寛保の 清和天皇貞觀元年正月廿七日筑紫
園後五位下筑紫神と從四位下と指しありしころ又

陽成天皇元安二年六月日菟前國從四位下菟前神
と從四位上と授ありて記せり菟前公風玉記と云菟前公
とて菟前國と合きて一むつらひ畷の上と庶務神あり性來
の人怒りて半死及ふま教まりて多き人命を
神とて時と菟前公の君 和列の君あり 是とてまて今菟前公の君
等此祖瘡依非と祀して是とて多き物りしうけり此路此人
神の害と被ふはまを以て菟前公の神とて 釋り此記は説
と云くまはははまの菟前公の境をまはは風玉記の説と
符合せり菟前氏則當社此神司とてそめ社の名と
りて居り 菟前村と
宅あり 菟前氏後と兵革と業として天
正のころ武威とを請りありて菟前上野公は社司の

後裔あり亨徳二年菟前徳重を經門同左近將監後門
け社と造りて 中棟札とあり 近きは とあり 是は彼
後及ひて天和のころ村民力と合きて新と河社と造りて
十月中の卯日とありて河社と改ての坂のちと河池のちと
くは とあり 其西のころと神井と清水と石れと井は元禄
十四年比嘉建之せり とあり
菟前院内府定誠公書とあり

菟前村

京田村は隣ありそめは京田村と此村と合せて一村たりし
事前記あり村の東に方と小高き山ありと云と城の橋
とあり菟前氏菟前社司とあり時住と一宅の跡あり

京田村

紀前國田代と云き宿孫あり此境内に紀前能前二國
の境大谷の東小山の上ありけしむる能前村の内之後に
くまなく二村とありけり

續命院

大宰府の西南より邑の名く昔九國二島あり大宰府に
たまりて氏よりくち久後追る一病とうけて死し或ハ餓死
する者多し大宰少貳小野岑と云ふ人ありてあるはこ
續命院といふ家と云ふ田地と云きて病とやいふ飢と
助く續命日記の中白雲承和二年十二月辛未朔癸酉の
条下に云故參議刑部卿四位上朝臣岑守大宰大貳と
ありて續命院一院と建て以て此所の名を名とす

但公力よりいふんハけりくむる事と得るん事と思
まは別布意と教て具く叙文と修して曰

管九國二島之民或公私往來相續其未輕者暫經時
月其重者竟歲始還容宿於府倉之下賃寄於閭
閻之間若病纏身手足不隨官舍督察非養病之處
王家爭趨皆惡死之人遂使露卧道路暴死風霜徂
有時得痊愈亦以飢寒死者十而七也兵見其如恻深
救恤聊建續命院一處檜皮葺屋宇鼎一口墾田百
十町以擬飢病者有志無力庶幾萬一地隔人遠執
檢難周轉以屬人更增踈廢若遂不恩心力恨心願
之從已伏望令府監或典一人及觀音寺講師勾當

其事相替之一事已上皆依實勘謝若不加修理令
致破損及法費用之類並以官法論此文未聞する
及久遠なる物取以て家大長と號て以て傳傳す
勅詔多て曰思撫黎甦不忘鑒宥隸宇縣愛遠无聞
控告見此并納爰知忠槩速令所司俾允所請勾
當之官迂替之日與奪解由一准國司又類聚三代
格の承和二年續命院一右宰府の南に杉皮齋の全七字
壑田十四丁小野谷と解休云續日本後紀是と以て是の
續命院を滅せりて是の院をうけありし院のついで
縁々ん今も村の名をかりてありて世に傳て信の院
と云ふ尚淺す一室に村中其院のより一處を以て

衣掛天神

國分村の境内に城所の南より田中より菅公宰
府と云ふと云ふ此の衣掛とありてありてあり
衣と脱くつけせむい石とて今もありてあり
少き社と化して衣掛の天神と号し

雜餉隈

伊豆北森の西より宰府へゆく大路の所を以て所
郡三村とありて南方東延とも尚郡内井村と属
す北に方東俗と山田村と属し西俗ハ形新郡井田
村と属すけ所宰府系活の人乃是と傳はるは
酒食とありて高の地ありて雜餉隈と名有り

又昔々寧府官人の難蒙居りしにありしより所の
水のうへに西へありし是より馬り京海へて城下茶
院よりゆく其名を――

尚井村

難餉隈より南へとま村に村中と尚井とて清水あり
木の尚とありて井^{イダ}韓と云このゆへに村の名も尚井とい
いあり其の極きて清例よりて大早とてとも清人
當り尚乃上とて澄ありるを至の取らり水出はと云

九郎天神

尚井村の境内に村より水の方大道に側東の方には
三井と叢社ありはは盗れ宮といふ菅公二十四人の

所子ありの嘗の分よりて教とつけく九郎天神とて
長政公の時博多れはの盗として進りけりせりるせん方あり
け林中にやける是と捜せりてよく進りてや終りるん人
そとよりて盗の宮といふや仲尼は盗の宮の事と濁と
忍の曾子の孫母れ里と車と還りむひりきりもあきと
いじき社号なれも此神の事かきりて右章よりてきり
名おひまはまはそ寛と清らんるるを記すの事一
説るる殿とハ寧府天神社宮に於神あり當りより
此屋の所の系と司りしゆり當り殿の社と号せりと説
あやまらるる盗の宮といふり

乙金

ひりハ赤種と書り相傳へて曰むハ漢平ノ口也云々
乃種後よりいハ後ノ後ハ種成赤種といハ種ノわたりし
此方と以て名つけしハ四王寺ノ名ハハ兵亂の時
此寺ノ地ハ赤種村と名づく今ハ此寺にて赤種と稱す

唐山

乙金村の東ニ山あり此山ノ高き山ノ東ノ
山ノ東北谷ノ名と通リしハ山ノ名と云へて宇津村ノ
河内ニ海ノ名あり一里ノ近ハ丹波ノ南ノ山也

中村

乙金村ノ南ニ同ノ谷ノ名あり此村丹波郡金

温村ノ南則与郡の境なり

牛頭村

天判山ノ西北ニ山ノ名あり谷中長江ノ下ニ
上村ノ名あり此山ノ名其形牛ノ首と伸し
此山ノ下ニ牛頭村ノ谷下ハ此郡ノ名あり

武藏寺

椿苑山成就院ノ号ハ武藏村ノ名也其ノ山ノ名ハ
傳教大師ノ御堂郡山田村本堂所ノ山ノ十二枝ある山
と切名て其佛像と刻めしハ十二神と又大
馬天ノ像も是も傳教ノ化也武藏ノ山ノ名長
古といふノ造り也

武藏國池上より日蓮宗に傳ふりて此の地なるあり武藏
寺と号し村の名をも武藏と云其傳居りしを池上
といふも其地昔より大寺として堂塔も多し子院も
多しといふ 正法寺 善法寺 宗正寺 池上坊 大門のまじり塔
系村といふ今も大門口に云むり此寺として其地ありて
傳ふ事ハ前記より又いふありて毎年十月廿五日
地蔵念佛供養と行ふ事をも是ハ虎丸長者武藏村井
上村に隣りて其地は池上村といふ也七十石の田業あり
りといふ田と池の農人より地蔵念佛の供養とせり七十石
の内廿五石は集りて三年に勤む是廟丸長者の時
に定式ありといふ虎丸長者の宅ハ井上村にあり

すこれといふにありてしと云今も其宅址あり武藏
寺の側ハ虎丸の墓にあり石塔あり此寺ハ忠之公の時寺
養を名を附せりり定治院に下りて出家印徳の系
りて筑紫の武藏村の事と記さるり武藏といふも其
地に事なりし其事考証ありて其地に記さるり武藏
齋明天皇上座部朝名にありて其地ありといふ
即湯治の地ありていふ村に行事ありといふ

天判山

ひら村の上より此山より本をりり長政の
小河内を極く極く極く用りて諸本と植せりり
山とありて頂より天神の社と世俗に言傳へりり

延喜二年 菅公い山判山とのちて飛せきとて天
と詔せおり申せきハ 天帝より 天満大自在天神
といふ名号と下しむひと也 或勅号とも云 或神託とも云 菅公の天
を降しむひに則この神社の地を石とてのちて天と
おしむひなるといふ其名と天おるを号し 神社の内
より神社東に向り参り八月廿五日己未日亦ち乃曉
天神の所輿榎寺に神旅にりむ其前亦ち乃秋
よりこれ神命の命とて毎とてくけい山天判山と
いふ名と信じて申すて天降と云 菅公天と称しむ
岩とておるを稱しむ山と稱す一花の時とてん
場より

△龍王瀑布

武飛寺に側りて其のくく高き石より是を衣掛
岩といふ 菅公相い瀑布とてまゝの付衣と稱しむ
岩といふ 瀑布に下川の申とる塔とて彫付より
天拜峯頭仰波蒼願心成滿放威光御衣
薰石變成塔五百年來流水香

正平二年二月二十五日願王大僧都信聰謹題

荒穂大明神社

天判山のうへ大岩の間に小き屋ありありと向へり上り
岩を横二る字高言流も下る岩を横二る言一る
流も此岩上下れる一る字を横一る言一の言一社を

此社を肥前國若穂神社と勅語あり俗説く壇く
梓弓とありはありと云九月十九日とありて代実
祿中四を貞觀二年肥前國没五位上若穂之神と
正五位下と授くく一記あり西峯老人云神代上皇
云初五十猛神天降之時多將樹種而下然不殖
韓地盡以持帰遂始自筑紫凡大八洲國之内莫
不播殖而成青山鳥若穂明神ハ五十猛神多くし
筑紫ハ神有切最初ハ地多ゆハ紀前筑紫ハ此路
と云しとあり壇く許すとハ俗の時今も説く
と云く

湯町

武彦村の境内に武彦宮あり又下宰府より二十里あり
温泉ありはる瘰癧とくくや切をくくををくく
あり俗より多し之影初集り福蓮禪々若長門壇
良事詩と

夜憶遐卿終入夢晴望孤鳥小。。

一尋西府温泉地治病逗留及兩年

此詩ある下宰府温泉地をむくの温泉の事や
又湯ありあり温泉とくくや湯あるあり
け何とくくやいふ今ハ山谷の少くを湯と
又武彦村に寛永のく次を築つといふ農人あり
と云くやとくくくく極くて湯と好む室のを

こある山と花と多く植く園中と石を置きて是れ
と植物多きを樂しむ方二方より人々入りて其を
つぎまよと亭と名するも後なる者も人々此花を事
と受けいささすと名取ていささと名するは樂廐
とい良馬多く市あり一宮とい美事多き程も是れ名
ふりし多く集りいささ富貴豪華族の園也
まよまよと名を以て名を取らんとい山と名するも山
とい昔大に伝ふる名花を名して六十余回者不
足他生定作愛花人と名しとい山と名するも山
花とい名ありとい山賊といは風流なるものあり
ありしと後名取て花と名するものありとい山と名する

こある山と花と多く植く園中と石を置きて是れ

塔原

村の前より圃の中より十五堂れ流るる今も礎残り
といはと十五堂といは昔此所の塔を名するといは
是れ此塔を名するといは

天山

こある山と花と多く植く園中と石を置きて是れ
この事なりといは村の入りて天山といは山なり
あまの山といは山なりといは山なりといは山なり
天山乃内西方寺といは山の上なりといは山なり
天山といは山なりといは山なりといは山なり

十二名許のうら舟にて舟り似るる石を長二名横一向
許り岩を上り下りて西へ向り此上より下りて岩を
下りて里民の童男廿女り高崎と云今も里の老
人に向りていふれと知るものあり童男廿女の秦の徐福
の遺業としてりし時の世ありし男女のつれづれに童男
廿女り岩といふ事後園上高崎河壽の里といふ舟後乃
海をりてありて高崎付合して名つきりあり

井の古賀村

井の村の南にあり村の内をこれといふ事り角丸長者り
定路りて外門堅十七戸ありといふり長者墓りて二ツ
り角丸り事ハ前記詳記する

二日市

ひり二月二日市立りゆ所ハ名り今市立り
所のとる東にりて疎路りて地の田り字と米り
るとゆへに米りて城りて城主の姓名詳あり

紹運家

二日市ハ良あり高き道のうらり高橋紹運の頭と
りりいふこと道徳度勢紹運の首と云換の後
市に埋りたりり長二名或人許横七人許あり
塚あり近き世りり忠臣義士の墓ありい
そふりし事り

笠村

二日市丸橋村あり管家乃沖ここと

は下も荒ゆる野をいあきとまき名がかり心とまわ

けこつ則世村乃事とよみあふりや

汁磨

民俗の言傳へこハ菅公天判山とて飛をきこくと天
祈へあひし後い何とぬりあひし老翁ありて谷と石
こあてくはるるる成えあひして何事うすくと河あふ翁
て汁と磨ゆるるるそくろく於て菅公感あひ
凡の事精勤をすして成物一難くとて又天判山と
登りあひしてまきこくと天と祈りあひしとやま老
翁と汁と磨りし石とてを始ハ山の麓とまじとをせ

道路の側林に中と移り長七人守る多様人守
るありあり扁名こ凡汁摺とまらけ下のとと跟く人
謙名極樂寺の南七里傍と出る石の山橋とも汁摺
橋と云又近江國にも摺汁岩あり摺汁岩と名付し
事むし物智少人志屋して田舎とあんとて近江と
通りかるとある人谷と名付しとくまのま何れとやと
同し汁と摺くとまきあの人相をわやうれ人もまじ
吾志とまきとあまうとて又教と上り学問して終
持士とありて河と摺汁とあつくとまきあ固てあま
劉氏の崎書と錦繡萬花谷とて昔李白書と
象宜山中とてし未成して棄去れ少溪とてこ

老嫗と云ふは、
すの娘をへて、
武氏岩ありと記さうい事、
この村の角を村れ、
川へ入る原村より流る、
まゝに河原系村より流る、
と入宰府の川へ、

平等寺村

山より一里余あり、
山は村の内を、

まゝに平等寺と、
けるハ、
城と責し、
つて焼ける、
へくむの、
を深山幽谷、
とし、

片野

昔一般、
は七重の石、

山家

昔前小倉尚書流本屋飯塚内野と渚でけ宿
りありきより西京田へりまより肥前田代とさく
長河の方より東海の通河して岩澤あり所は民家
多し又橋多し二日市と種く甘木より流後豊
後へ海へ南北の大流もい宿の少しありより近し

沖手水瀑布

山家村より十五下河東池田村より河より大色の
東より小流の岩と傳ひく下り上の流より七石河
あり三條のついで流より二石ありけ流ありて
下り又五人あり乃瀑布あり物もとも花本佳観
よりありけ流の前より観音堂ありい流ハ山家川の

中流よりありけ流の小谷より出るあり

大鍋 小鍋

山家村の東に鍋嶺といふ坂あり山家村所より一里十
町許より之坂上より小川山家川の流あり大石
乃ちあり川のそとに長き二十間余の大石ありて石
上と水流の岩は南方ハ水は堰きく入る横に岩
ありてハありて是のそとに千石許の石水流の崖
くそ方流あり六石あり中より流て良下り瀑布
あり淵も是と大鍋と云甚深しそ上り小鍋とて
蛤淵の口ありて力ありてうめてるあり淵あり
徑一石ありてそ流き事しりハ斗を離れとて

今ハ繩ノ石を流ひこけて入るゝハ人けりるをある水
のりり馬くして座えへん其人之修く流さああり
此岩れ上流も流るゝこよるゝ入事あるあり

山家牧

冷水嶺の南に 長政公の沖時はまひり馬牧
の址あり東西一里許南水亦然了り馬りりこあり
ありい牧を山家村の教頭教 栗野田村穂波部
内野村こりり馬り内野山より振出て馬と駕し且
雪ありまひりこ音をいひりり 長政公の沖時馬
牧やこりり

筑前國續風土記卷之八終

筑前國續風土記卷之九

夜須郡

朝日村 日照寺

二村

安野

尾形原

石櫃村

日本村

砥上神社

八並長者宅址

勝山

東小田村

玉貴大明神

松延堤

長者所

味噌堤

金銘水

千間溝

緑松

野打

栗田村

栗田八幡宮

目配山

松尾

老松大明神

三箇山

玉屋權現社

阿彌陀峯

秋月谷口

弥長村

於保奈牟智神社

檜原村

甘水村

千手村

長谷山村

婦夫石

秋月

上秋月

切殘山

江川

荷持村

古所山

八丁口

筑前國續風土記卷之九

夜須郡

日本紀と考ふに 仲哀天皇九年春二月壬申辛卯
 神切皇后層増岐野とあり則兵とあけく羽白
 熊籠と稱て是と之と云ひたあり謂て曰熊籠成
 名得て之が心安しと宮あり其宮と号て夜須と
 云ふに記ありは郡の号と云ふに記あり後と二字あり改
 めて夜須と書ふるありは郡の南に筑後とさくは是を
 下野と云ふあり小戸産穂波と山と隔てはる西
 ち河をさし渡り境内に山川多くて水利少なりは
 土地肥沃にして米穀多し以初名抄に夜須郡と

東西とあり今も栗田より東と東々といひ西と西々
 といふ 和名抄より少くもこの歌の御の名にあり
 中屋 今砥土村の事と
中屋といふ 馬田 今も村の
名にあり 加美 雲圪
 川島 栗田

今括る河内郡乃村の名

東山田村 曾根田村 三波村 松延村
 長老所村 四三島村 口内
替 二幸田村 砥上村
 甘本村 朝日村 石榎村 吹田村
 赤坂村 藻隈村 二色村 春田村
 秋月 秋月 二十九村
 馬田村 下浦村 上浦村

草水村 畑崎村 高田村 午小村
 久光村 上高場村 下高場村 栗田村
 依井村 三箇山村 五島
標本
茶田 中牟田村 持丸村
 橋本村 甘水村 大塚村 菩提寺村
 隈江村 小手村 長谷山村 下瀬村
 赤長村 上秋月 下秋月 野鳥村
 江川村

朝日村 口照寺 十三塚

村中と朝日山日照寺と云寺跡も在るハ是際佛之
 是傳教大師電門山とて造りて七佛の一ツあり

今ハ寺と無く在りし其後朝日村より乾の方二十
三塚を南少と並べり之より東南も十三の並べり
二村と云ふ所へ向て東北十三の崩きて今も其處に或云
近世大友家と流業上野物廣門と云ふ戦し事あり
流業星野河村も流業の方より加りり山家あり
て戦ひて流業赤穂と歌とあり百人ありけり時
其首と一石と百とありて極と十三の築せし事あり
さきもい地と記しに中十三の塚凡十五の河あり
亦他ありあり物まはれ流業と云ふ事あり十三の塚の
説を極端の内と云ふ事あり

二村

此村より六里ありしと云文初より之より下りて東
西十三の塚並べりて崩して河と云ふ所あり此の
名もいけり十三の塚と稱す一河と云ふ二村と稱す初め
所の南洲ハ萩原郡に属し小洲ハ河を記すに属
たり二村合きて一坊といふて村の名も今ハ萩原
郡といふ

安野

東小田河と崎鷹場之邑乃七板系と云彦きあり
方一里あり是則安野と云中より東小田村の枝邑を
かく崎といふ此の田畑あり一系あり
君さめりす極やすれと稱すやのん友はよして

右太宰師大律卿贈大貳丹比縣守卿遷任民部卿歌也又しといひし一酒と造るといふ

屋形原

下府郡屋方系村あり

四之崎の境内にやうな系といふ河もここより大なる古塚を是と屋形原墓といふ屋形といふといひり富貴人居るあり河もやうな性名知事人

石榎村

中牟田村の枝村あり中牟田村を梅月谷といふ屋をり石榎村を福長谷といふ村中へ天神の社をこゝ始り社の神狎と石榎といふとて中へ埋り是と云ふといふといふ河ありといふ民屋の後ろへ山高き塚あり

村の名と石榎といふ大道筋といふところありあり
こゝも残る榎所といふ

甘本町

國中にて民家多き事子良節姫湊といふ所
敷十五所氏戸枚敷五百二十之新人数敷六百七十
を人馬半百七千之也あり
是延宝四年
此の河もやう 能前能後肥前能後考前豊後といふ六國
商人多く集り交易して各々利を得る中へ於てハ
福長博多姫湊分真境多く持ありて富貴考後

薩後紀前の内ハ海味多くハ是より買ひたり也を
増多より甘本八町人馬ハ性本善きハ乃ハ在薩屋の外
ハ是れしく人馬の性本多きハ予といひ本名路橋戸
路戸ハ中く是より及りハ○安長ハ甘本所とあり禪
寺淵家あり甘本山と号ハ用山園監禪師と云應長
のころ開基よりとを今ハ承天寺の末と云ら内ノ地
飛堂も松月種實より後去る捧一橋家といふ名
物の碾茶壺と云とハ肥前平戸の松浦氏部痛浦に特
志たり或時松浦氏多実窮よりて成用と云一物といひ此
茶壺と云はて候して松月種實よりて代筆百粒と
取んと云種實古志と號のたまハ得由かくいひ堂と

尋りし三十粒ハあり候も亦七千粒ハ弘世の町
上方より運きたまハ薩前薩後共前ノ富者考り求りけ
まも無りたりと云はて京都と人と登せ金と求り
し者彼橋家ハ茶壺とハ其地飛堂と云は松浦
ノ士三人松月ノ士三人と云茶壺ありたり七千粒の金と
求りたり都合百粒地飛堂乃應りて金と精崩して
松浦氏よりありし平戸の士と云て一橋家の茶入
と云ふも今より運きたまハ九列と云金の志偽と云
知れよのちありし也あり○柳原正二位大納言乃墓
日本村乃川ありあり天正の頃也柳原大納言と云
人ハ河よりあり尺八と云て俳句をいれり小早川

隆景に監吏と亦八と吹て玉中と也りたり大納
言何り監吏と尺八と押へて取らば一と隆景等
いりけり系と碑とせり此の考と墓とを築むるに
里人といふ此時言官人の國とちり住らる事たり
へとも是へ人但犯表にのりありしや且隆景僅存
の人はりしと高と高官人と碑とせり事といふ
しは是れはとも信し難しとや或言者ありて偽と
大納をと稱し狼藉ととつとせられりや

砥上神社

砥上村とありけり中ッ屋のつなれハ中ッ屋権現と稱
此の考と傳へりハ神切皇后新羅と討むらん
とて先徳武代軍兵といふ事と招きむハ中やとと
宣ひけり中ッ屋と号し相軍兵と命しけりて
名無事と研みかてせり中ッ屋と砥上と号しとや中ッ
造跡とありて後世とありて神切皇后とありと
たあるとありしハ大社ありしと云へ宮所度く物ふ
りて中池沖橋と尋常ありし昔を二月十五日と祭禮
あり神樂と奏し射社と行ふ又九月廿五日ハ恒例の
大祭とて神幸ありし時沖輿とやとありしは沖社
より南に下りたりと森本とて造りし沖橋ハ

西のりハ幡大神也沖社と村の中とあり南と向へ
り社家の考と傳へりハ神切皇后新羅と討むらん
とて先徳武代軍兵といふ事と招きむハ中やとと
宣ひけり中ッ屋と号し相軍兵と命しけりて
名無事と研みかてせり中ッ屋と砥上と号しとや中ッ
造跡とありて後世とありて神切皇后とありと
たあるとありしハ大社ありしと云へ宮所度く物ふ
りて中池沖橋と尋常ありし昔を二月十五日と祭禮
あり神樂と奏し射社と行ふ又九月廿五日ハ恒例の
大祭とて神幸ありし時沖輿とやとありしは沖社
より南に下りたりと森本とて造りし沖橋ハ

東山田村の内福治殿と云ふは 浄社より十八 三升極
の規式作りしと云や 此も交の所あり 路月氏より二所
余ハ神田と考附せらる 今ハ恒例も落果いり
許さる多しと取行ふの事あり 社より少くありて 埴井
川 澗有村より 廿宿あり 少ハ 砥上ヶ宿と云て 高
山あり 此所より 砥上 檜現 埴井あり こと上宮と
婦更石とて 石ニツと云て 砥岳より 二所許り
りて 石といふ名も こと又 兵部と焼くことありて
名あり 吹田 赤坂 砥上 三井田 竹田の
み村も 砥岳の下あり

八並長者宅址

三波村の下 八並といふ所を 明暦の頃とハ尚健と

塔と築く用と云て 今ハなし 上野郡宮野村とて
八並長者の宅址あり 長者と稱せしハ 少く重の富人
とて 名も 時代性名 詳あり 此は宅址あり 此高
と焼并の石あり 多し

勝山

三波村の枝村と勝山と云ふ所を 其谷の君ハ山と大竹
多し 此は之免文の始なり 此所の所とて 國君の
旗竿と用ひらる 毎年十二月と十五日を是とす

山隈村

四三崎の東西より 山隈山より 山上に城跡あり 山上を以て
麓前 麓後 境と云ふ 山上を 麓前 乃地多し 麓後の地

かし山より山隈檀現の社より石の蓋初より彦山檀現
と勅請すといふ事礼二月五日は流後より属せし
此山流後より山といひ山の巽二十町あり流後
の内山隈より村を是と云く山と山隈と名つける
山隈系と号せしあり流後の山隈村を云ふありと
元和元年始りて云々の上云備村に属す

東小田村

此村の峯堂といふ所を是昔し寺と云はれし西
より大塚とて二三方ある古塚七あり首塚といふもの
あり向く首と埋へ塚や洋を以て昔舟を云て小武
菊池合戦の時死體と埋へ塚あり山隈山といふ

峯堂をまま里と云へ村より南方四丁をかりて聖徳
あり又東の方六丁許に夫婦塚とて名け置て少く
ありいふ人れ塚とて之のこゝに石の中ありて
墓多し物ももつて代いふ人あり墓といふ事と
知す

玉貴大明神

彦根田村の内玉貴といふ所より神祇を男女に二社を
氏俗と云ふ事那須與市夫婦といふ所あり

松延塘

菅延村より水の曲と申すといふ所ありといふ
塘あり

長者所 馬場

け所を 長谷川入國の後なる三波村の下八並長者
の所より宅の邊ある人 長者所と号し長者の宅の
事より前記はけ所より村より二里持多う六里と

味曾堤

細嶋森山三波三村の境に水田を耕し水と貯り
堤を築き土民を並長そ味曾物と推しけ所と
いふ土堤の性あり味曾のこころあり名つとも云
塘の内長二百石積の唐土河百石或は六十石あり

金銘水

当河村の内大尾に端あり是清冽なる水ありけ所と云

今いそ亦尾に於て水を出し当河村の大尾に端成
少き山の上を墓より是と大磯の席の墓と云け地
席の墓ありきいふ世に傳へる事 高証多し
信すい備後國世良郡少尾村とありて堂前
に古墓あり是亦お傳へて大磯に席の墓と云高
と云傳へるあり但又いふるありきいふや

小向溝

赤長村の下を上宿場村の邊より大尾なる溝あり
水通る少くしりより下りて河田とせん為
と傳へるあり

緑松

上野場村の東乃境より上といふ所は緑松として松一
株より久光村境内あり里俗に言傳ふるは百合若大
臣の緑丸といふ一節言東條より飛来す松のよきと相
と傳ふると云一節言場といふ節といふ名ありは附合せ
るやいふ一節 百合若大臣の
志産形といふ事

野所

此所は煉月より西の方麓後の松崎といふ馬次の家こ
杉月より二里を聖所より西れ方松崎の松のゆくこ
こ方三里に下りて是より麓後へも松前へも西るを此
路月と野所といふは長町より西と馬道といふ非ず野
所と昔野所といふ所をせりしと黒田長真といふと

より筑しせは室一ツとて寛永十四年よりりて所と
まゝの依井村の枝村なり

栗田村

栗田村を和名抄にありて長瀬郡のつれ名に始り森
山久光苗に栗田の田村一邑とてまて栗田と号し
長政公入ぬ後栗田久光二村とつる長真公の時栗田
の田より森の山とて長後森山の内より高河村ありす
へて田村といふ栗田村を大村とて佳境なり

栗田八幡宮

栗田村よりありはの神三座西住吉大神中八幡大神
東神切皇后より昔神切皇后御白熊尊より強敵

と訪んてはけしと経さしあひし地事ハかく此所は祝
ひありゆりや社家の説ハ村上天皇天酒乙年八月
乙未臣孫系重直と云人りめては社と建さあり依る本
左近重綱横山左近重能兩人として両宮司とせし道
神領五百所寄進ありと云九月廿日ある事昔ハ此日
神幸あり今程その名の森も 沖社より十丁許あり
る事ハ沖社の前ハ楠乃大木あり大さハ周囲を山上
ハ岩あり 神切皇后と祭奉りし所といへとも今ハ沖
庵あり是と上宮といふ

目配山

栗田村上宮の東あり山と目配山といふ山上方一町あり

石を里人の後とけり 神切皇后産みし四方と云
るありあひし目配山と号し

松尾

栗田村上宮の北十所あり 松尾といふ所を因て思ふ
日中記皇后記ハ皇后熊鷹と討んと欲して檀日宮
り松峽宮と遷む事あり 栗田ハ則 神切皇后ありむ
ひ 地ありハ日中記ハ松峽宮と云りありハ此は地
と云ふ事あり 寛門山傳の説ハ寛門山のおれ
禁松尾といふあり

老松大明神

栗田村乃枝村寺家と云はし九月廿日ありあり

天正六年十月中旬秋月種實薨落廣門之命を御皇孫
岩屋の御子に押せしめし火を放り城を焼きたり
岩屋に高橋紹運とて入て兵とあり五家ハ歌と追
散りたりハ歌とあり宰府と川邊く物多し歌の事と
記しとけて 天満宮のハ社人等多く入り縁と志
しといふもいふもあはれはハ社内せしむるを
又ハかり秋月種實法友のハ社中とていふ事ありし
ありし者もあはれハ家と火と付たりハ折る風
とけり多し也 此種本社とていふて唯一時ハ灰燼
とあり 社人向者坊主といふは秋月家七代と悪者
ありと崇とありんとして火の中ハ飛入海死たり 秋月

種實大といふと少少と火と付る者一歌と刑殺せ
しとてなる事 天神の事ありとていふはハ社とて
て太宰府天満宮の神神とていふハ社人とも招きあはる
ち家とていふ五百名ハ地多と則神社と奉る天正十
九年ハ小早川隆景宰府の御社とていふはハ社地ハ
御神神と宰府と移しある事ハ御社とていふはハ
假し種實といふハ御神神とていふはハ老松大明神と
祝ひありし事ありハ社前と神地と宰府の社傳本
居少事居下この御社とあり候とていふはハ社地ハ
二心山 玉倉権現祠
穂波部内野村乃川と狭き谷の中ハハ村とていふはハ

五玉山村橋本村あり之は村宮根田村より山と題し
内野村より二千丁許上之桑野面村をそとす里と五玉
山村を橋本又桑野と凡三村ハ他村よりをこくを
深山幽谷の内とて人のめい事稀之冬ら雪深く
してとてさし○玉屋権現祠五玉山村とて五丁許山
とて桑野より下谷川の傍とむり五玉の山をそとす
つらう社内と細じとて人々を信或人許五玉とて向した
とて其形をじて玉のとしけ玉をそとす五玉山村と
いけ社を彦山一神神として彦山宮湯の山伏修り
する所とて山伏入峯の道ぬ社のもろ谷川の傍
とて大石ニツとて授りて清水伝道とてつ民俗の説と
膝

旺の婦人いよとのりハ寿安ト云ふは村と雖産及彦
死に婦ありといふを本ハとも漸くせむとてをの府
者士を更彦氏といふとて之を信と信しけりといふ
彦婦と記しむる人多しは彦をそとすハ社と城とてけ水
と筒と入と折る○三笠山の西南と長き山を則老彦
那三波宮根田砥上をその東とあり此山の西とて
山を山家所の方とて一老彦神の境と 神功皇
后の通りむいけはありとて神をうとてけと云そ
彦とて山ハ峰筋はけとて谷とて川のけいの
口ありといふを桑野のつらう山の岩なる又宮根田村
東山の山ハ峰と題して桑野曲の方とありて牧の内と

河をむく馬の牧をし治む堤と築田とあり

阿彌陀峯

久光村の内ありこま甘木と煉月ゆくの岐の昔は河の上の山大なる茂山ありしを古の村老程住く表陰の人とならむか河流院の形を現し光輝く又今人等を信仰する程の精告て曰吾人の生牲を借へて吾外違て人と浄むと執りしむべき由らけ地をよと築田村の地よと久光も築田の枝村ありしは築田の里氏是と當りし時、こま里へ内りて牲よある人と定めて今河路の舟れ方なる小山の上の壇と接く河流院とありは人兼受けありて現して彼借一人と取て今里人等を

悲しむと或時牲と借へたりと彼河流院より築田とよひ築田の民を多く猶一人は里人當りて又牲と借へたり或時十二の衆の女子牲と借ゆり當りてその時たよく河を流れ獵師ありてこまと足けるといはれは狐狸の化してありとありんやとて誠の佛とありと思ひ人一人知るを以て唯一人は佛とてしをとりてち矢とならむははるはる彼河流院をよとよひ牲と借へる女とよんとよむる河流院にてちやうと射るあやまといは忽ち古程と射殺して今其後の縁を其やと思ひきりし一説は築田の里人父牲と借へたりと當りてこま悲しむといはる

河内院にて中あき吾親ととらん老とととて
道新とて弓矢残りて射るに河内院射と
まふとてしるあふ山と遊りて遊りて来て
尋ひて山林の内とある老狸とて高りて死し
外とてなるとをまよりしてけいんと河内院と名をとて
里人強りけいふとてさう治捨てて記する山別
岩山と程いて善賢菩薩と成るとと狸解の射
殺とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

秋月谷口

依井沼永ハ秋月の谷口とて是より秋月との名と山
中とて度き谷とて谷中とある村とて教凡十村田畑と

いふにるに千とるに秋月より出ると右の方と山の下
とある村と谷山甘水橋永沼に沼水あり又左の方
に山とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
秋月より沼水とて路程一里八所と

涌永

於保奈牟智神社あり

定彦武神名帳と表須郡於保奈牟智神社一
とあるとてとてとての神ハ則大己貴命あり今ハ大神大
羽神と稱す市社と南と向り東の方と天照大神
西の方と春日大神とも合ありある宮所神竈と
境地とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
月庚午朔乙卯 神田皇后諸國と令して船舶以

集り兵甲と結ぶる時、軍卒集ひたり。皇后曰
必神の心をん連大に揚の社と云て以て刀矛となり
あひつゝ軍卒おのつゝ集るるを
皇后は皇后の國に歩むに
て新羅と云ふを
ひつゝ又釋日本記に流布國風と云と云く氣長
足振る新羅と云んと思へて軍士と想ひて、
はなひつゝ軍士と云ふ中よりして適りこゝして之よりと云
求むる則崇る神の名と大に終神と云ふなりけし神
社と云ふも遂に新羅と云ふけりありけし則に社九
月廿二日を禮するひりハ此日神輿出幸あり、
河村の西軍下許と云ふものも、
外年中ハおれ夜と云ふと云ふなりけし、
其

とてわ物も、
多くして人の尊敬ありけし

橘原村

け村の森中、茶師堂と云ひりハ大寺と云ふ是と橘原山
薬師寺東光院と云ふ也、
今も茶師堂と云ふ東光院と
よ傍坊と云ふ高き下りてき、
桑より田の字あり傍坊の
名多く在り也、
傍坊と云ふ橘と云ふ今程多し、
春月花
籃ひり付を欽賞す、
村の上あり山と小富士と云ふ取
るよしありけし、
河村ありけし

甘水村

村の東に井あり是と甘水と云
甘水の事、
其下り

甘水の事、
其下り

梅月氏の宅跡を是別宅か一と云梅月より穂波郡乃
君の畑と越ゆその左を白川村とて甘んれ枝村をさる
と甘水へ流つ甘んより一里上と云梅月より一里餘あり
甘んより梅畑楓多し世道成苑の整りおまふの及細りハ
鹿目とおろくふくあつて足跡と伝ふ

長谷山村

昔し甘山の向ひの山より觀音堂を設て大和の長谷と
あつて長谷山と号し傳説に述るると云申す觀
音文化ありと天正十五年梅月往真村月村とて日
向園と云とひりし一付觀音の像とて携へゆくさるる
後村氏ひりし事と云ふの觀音の像と別り甘山

上の觀音堂と山下と建てぬ云々れも傳説と云く觀
音堂ちち老もあしその村ハ觀音堂よりハひりハ大石
乃山と云觀音山のりハありハ此村と兼と云く産
け山中とてハ好景ハ天和年中とて向ひの山より觀音
堂と云流ふ其前と云し昔ハ觀音堂と云ふ

婦丈石

秋月と云長村の乃乃河をさる大石二ツ相對きりゆり
名つくさるる氏家と云秋月の也螢多し長谷山村
と云又丈婦を名附大石ハ郡の柴田村亦大
郡吉田村と云奥列今津の耶二部も丈婦を名
も二石つと云さるへは事と云云唐土の典籍便

覽く書る陰陽石を以てふも大石れやろまをふひる
とてり是と同一の處し

秋月

此河を昔大倉姓秋月氏の居村あり相傳曰秋月氏を
原田氏と曰性として其始祖は後漢の執帝十五代乃
末孫阿多陪王曰布と曰化し播磨國明石に迫河大
晴谷とてつとて為終つて此の主とて大晴谷氏と号
し代々お孫氏或時 天子の名の月亦淡のり行幸
る一と大晴氏系候す可明石に迫まると大晴谷と
いふ氏と相違をいふ秋月と稱すといふ作事もて一系
代々秋月と号は後と流前もまありいふと住しる家

此の名も秋月と号しけるも今この邑に居る宅
即秋月氏の宅地あり人館を補ふ又宮園もいふ
或栢林をいふ秋月氏世といふに住せり又西を村の内
と彼をといふに秋月氏の住にありしとやな
城と古所といふありこれ秋月氏代々の城と天正の以
権真の時とて表須下産を産物後流石御井
と系は系豊前れ企救田河京都凡三國の内十一
郡領あり天正十五年の壬子秀吉公筑紫と征伐しむ
一付種實ハ流津方とて一旦秀吉より款對しむとい
ふも流石不叶橋紫といふ碾系壺と捧け流石系人
かして筑紫と平つけ御歸のちありいふと意く山早

大栗 母波の産す 推實楊枝 丸葉の川 茶 長谷山
 白川 黄楊木 古河山 著藤 高長くして味
 白川 長登 葛粉 白川と多し又産 山菜とす
 川 産不出 獨活 少 蕨 日 筍 後 芋 白川 葛粉 白川
 拒中 杜月 推算 他 推算 他 本天菘 平 草菘 草
 推算 他 推算 他 推算 他 推算 他 推算 他
 上 杜月 眞 他 眞 他 眞 他 眞 他
 沙 の 小 鱈 他 鱈 他 鱈 他 鱈 他
 鏡 右の外 山 右 山 右 山 右 山 右

古心寺

興雲山と号し杜月色と号す 隆徳宗大徳寺
 派之正保四年の壬辰也 長良と号す 長良の
 とありと号する 是より先長良といふ寺まことの志ありと号
 とし月和尚と号す 月和と号す 長良と号す 進号と
 興雲院殿古心道ト大居士と稱せし 又と号す 興雲
 山古心と名つけし 月和といふ 月和の 長良の 進号の
 立ありと号す 月和といふ 月和といふ 長良の 進号の
 像ありと号す 石の 長良と号す 長良といふ 進号の
 と号す 別墓に位牌あり

大涼寺

淨土宗 杜月山 照院と号す 杜月村とありける

淨仙と号して今北大涼子の川に向つてありて成
寛永九年と光景とら僧々の地と移さういふ事
二り逗留しあふ

大龍寺跡

杜月村の谷中と云ふ是禪寺にして開山の志を叙昇
村永泉との才二世泰伯和尚より杜月氏世々先祖の
墓地ありしと云ふと寺院もあらずと云ふの事残す
る所古墓と云ふ所龍光琺瑯居士と刻あり物も古
いもの人も知り難し又鳴後山觀音堂のより杜月氏
の墓ありといふと大龍寺の内之證系に家長の鳴後山
助の石牌もあり上北山と大涼子山といふ

音多寺 志言宗

鳴門山南福院と号し古寺の長と云ふ石新の歌言
ありむり武竹系横横ありて石を踏り後と切
死しと云ふ後と云ふと教しと歌と教と云ふ
又杜月種志の家長と云ふ利内龍助といふ者あり元
武切と云ふと天正十五年の春秀吉と九列征伐せんと
て中阿と云ふと風多あり杜月種志と云ふ二の流は方そ
偏に龍城の用とせしと云ふ先例ありて三月六日秀吉と
降系此史と云ふと其軍勢と云ふいふ事と云ふ内龍助と
括せしと云ふ内龍助安氣園彦徳といふ秀吉といふ合
則此所といふ信し杜月種志といふ彼の事と云ふ上り後野

彈正是と云次く 秀吉云すむい内藤助之對面をて
村月と時信とをこの一味するはさすあり時信を伴
乃志と藤一吾方方と事入さすの役をたふあり
飛箭飛後ありと云り之し汝急を池よりて此を成
村月より下りの作して河徳物と云さすは内藤助急
き村月より下り時信と此よりと日秀吉云の軍務盛
んあり有極大軍れいなり事と告て降集て死し
々とい持真天と怒り汝は秀吉の謀るまはるる吾を
時信と七代との知事なれ其義と愛しいつて秀吉
馬と事入さ寂行彼いさ事知とを汝のなる内藤助
秀吉云れ勢の欲し難き中と具て汝うたれと時信

及家臣と信是と云て朝り倫し内藤助は徳病とく
かといふとと汝のなる内藤助是と云て時信と汝の知
つこと事あり尚時の面自と其のなる事と悟り汝を
誰白殺しけるそ名今堂れ内よりてさ二人誰あり
是と云さるとして汝言と号れ誠は此石をた匠れ跡
り殺す一石をまはつる人を名と汝事へき事とこれ
も是と汝言として時信の理なりあり 汝言堂
の前はハ小川の流をさすて水のある事あり時信
と名つをゆりしや又音をさすの前と名あり長と二
百四八横とありさすとなく唐にして山形と汝くさす
判りせむるやし後と長與との母と太孫院殿の位牌

持月トリスは東古河山のふもとあり日記 神功皇後の死
持持田邑トリスの羽白熊野といふ古きと死す一は代事か
るうぬとも交定一難一今ハ聖武村といふははも持月氏の
湯居はありて館屋ありてはも高きありて二階洋
ろ又持取といふは上持月村といふ持取の民家ありて
今ハ仁徳と云ひしれ持取ありしやいふし又聖武大カ
村も持取といふは上下村ありてまも持月は東の山と云て
東山といふあり

善明院 天台宗

持持村といふは是古河山白山檀現ハ社乃僧凡栖ハ
寺なり

古所山

持持村は上あり高山あり持月の東ありてあり
湯居といふ山高きといふ持月の上は湯居といふ湯居といふ湯居
といふといふ白山といふ白髪嶽といふ山といふ白山檀現の社
聖武村の西上といふ湯あり凡い山に登りて道二筋あり
持持村より直に谷川といふ湯といふ湯といふ湯といふ湯といふ湯
といふ水石多く難難といふ持持村より白山の社といふ湯
二十ハ下より又山の方より四ハ下より道より下りて
湯ありて是と湯といふといふ一里余ありて又持月府
君の館より直に古河山といふ湯といふ湯といふ湯といふ湯といふ湯
といふ湯といふ湯といふ湯の正上より湯といふ湯といふ湯といふ湯

秋月大の

室跡を秋月氏の城跡と推現の所なり西の方一町坪
より城の後ろへ大なる岩をこきり城設多くつけり凡そ
山々のさきある事一里もなほありも多し能前にも
あり能高の上の坊寺あり事甚あやうき事ありとも
けり程古人の説と以て是もいふ明りありて疑いなき事
に後長くまはるに記せん城址の下一町坪く山あり甚
清涼にして大暑くも洞窟に里人の後へ一合をたたく事と
昔よりいふ事識る一町の用あり古河山西の方十町余
あり坊坊れ地多し山上白山推現の社に後数丈のちく團
又岩ありを形奇怪にして形容しつて山容も形多し
石の傍へ湧き水くくあり岩あり水濁りて暑月と

いふも是も疑ありいふ道中におのつて出づるあり
地岩れ上へおき能よりく眼裏を慮りして迫り居一町
の内より佳景ときらびにあり東の方より丁坪のち岩
石を登りて其道艱難あり岩あり攀縁^{ヨチヨツ}してあるは危
峻にして懼へし其石の形大く奇異にして古昔より上へハ
樹木多く茂りて暑月にしても清涼く大岩のちりく岩は
側へ入りて一町坪をこきりも大なる事あり石を
も是と名け流しよ山伏の修持するに似して符札多し
まはると出て又其ちこも事十四町あり大石二ツも名を
こせし岩も多し一も石の向うく一町と名へし横くありく
いふ事八町坪を上りてありしを契石と屈曲するありこ

万々り石宮あり白口とてもく下燭と燃して入る
所狹くして入るに檀現の社も此所の間に大なる黄楊
木多く生じて甚矣又岩より石茸イハタケ多し凡て山終の
任境として世々掃るる勝地あり

八所越

は秋月の北にあり

此山道の嶮しき所とて所由なるは八所越といふ下
名も要害とて寛永七年に名君長興公家臣郡吏
安清宗兵衛一任し命して古八所の道とてさるる新
道とて切開ししに翌年とて其切開ありて道と新所
越と云是肥後犯前飛後より年月とありけを越して
赤戸郡子の所大隈所とて豊前市と海なる大隈あり故

近國の大名と江戸江島と此道を通る人多し又この
細の舟をより山の方と精して故とて人君の細とて
飯塚へゆくも大隈の村よりありて二里十町
あり所より大隈へ一里あり又秋月の飯塚へありけ
る馬路あり

飛前國後風土記卷之十

上座郡 目錄

麻成良山

麻成良布神社

志波

把岐市 普門院
金鳥山 天神社

圓清寺

狐原岩屋

惠蕨八幡

齋明天皇御陵

朝倉関

朝倉橋

廣庭宮

朝倉山

千年川

小邊田

湏川村

湯隈

南林寺

鏡石

烏集院

大庭

長洲

入地

久喜宮

山王社

古賀

池田

宗坊寺

御目原 野手八幡 林田 上寺 宝珠山

△平松 鼓村 花園滝 砥有 合薬 黒川

小石原 兄弟岳 中野 佐田 大行事社 埴山

佛谷 穂坂 園山正金寺址 阿糠大明神社

赤谷 福井

瓜の身七 赤谷の身七 赤谷の身七 赤谷の身七 赤谷の身七 赤谷の身七 赤谷の身七 赤谷の身七 赤谷の身七 赤谷の身七

畿前國續風土記卷之十

上座郡

此郡は畿前の東南の隅にありて南を海に濱り河を千
とせ川と濱り東を豊前豊後とさし川を河原郡と濱り
北と濱り西を上座郡と濱り國中
才一の膏腴の地にして種植の利地なり倍せり福井
宝珠山佐田馬川赤谷山石原をこ深山幽谷多く英
材と出し大河流と多く英産多く産人最上の郡之民
俗賢豪にして蘇藩をこし凡は郡をこ深山多き事國中
才一の土産多き事國中才一の郡の土産
猪皮 紙 麻 根杏 大芋

*河川多
く産人*

蒟蒻 紅花 繡 鶴 陶器 中燈 葛 聖子 椎茸

枳 椴 大栗 椴木 大枳 大竹 蕨粉 油菜

茯苓 漆 綿 牧馬 長岡平地 粟 班竹 福井 柵木 蕎麥 未

三光鳥 川臭 羚羊 富原山 河鯉 鱒 臭 河鯉也

上産下産の内 栗と多くうふ油菜はよくはき紅花又

和名抄に載るる支那の産物名七ツあり

把伎 他田の板村と把伎とをいふ又板田星丸池田穂坂 壬生 廣敷

祢田 今十村の石 何東 三島

今採る所の村は名凡三十三村

比良村 須川村 宮野村 鳥集院村 入地村 上久

彦村 下大倉村 石蔵村 長岡村 上寺村 田中村

田村 古毛村 菱野村 山田村

以上十村ハ上産の下に云ふ山田村より小川谷平地より南に山田村とて採るより小川谷鳥集院とて採るものと云

志波村 久長村 若市村 古野村 宮野村 池田村

栢田村 穂坂村 大山村 白木村 星丸村 美津村

赤谷村 黒川村 佐田村 岩泉村 福井 宝珠山村

以上十村ハ上産部上り云ふ志波村より南に山谷中

こあり其ハ山谷系福升宝珠山とて限るとは志
波ヨリと限るとハ山田村と藤宿山下の河端狭き如
名宗置れとて是と云ふ所の限なり

麻氏良山 麻氏良山人
たぢ良と云

此山々山田麓野の东志波村の西北と云ふ所の法山より
最ふくそ飛ぶなり 延長式神名帳に上彦部麻氏良
神社小一疋と云ふ所より山田村の境内なる麻氏良山の上
より南に向へりある所の神を伊弉諾尊と目神月神
素盞鳴尊蛭児と相殿と祀る伊弉丹尊齊明天皇
天智天皇明日香白皇子天智の
皇子を奉りてよけ山西
峯老人曰筑前國朝倉神社といはれたるは布礼神社

ありし今按る 齊明天皇筑紫よりありし其の朝倉
乃彦彦の比とて建りし朝倉の社乃彦と成し其の神の
きつとて事日神祀りてなり此時行宮と建んとて朝
倉神社となす良の山とて改めたりし也朝倉の宮址
よりたぢ良山とて名をとりてはたとてしされし事
そ是れとて下ハ宮布礼今ハ布礼とてお氏よりけ
社とて地の所よりせし二代宮布礼 陽成天皇元慶
元年九月廿五日筑前國後五位下真天即布礼神とて後五
位と授く同三年九月七りと正五位下と授くる同四年
六月二日正五位上と授けりてあり按るハいつハ朝廷
よりし神尊崇りたりし 天文四年太宰大武大内侍

助より宝幣と捧し寄進故多程残りて

志波 把伎市とも

昔一けはと遠市に里と云後代に志波氏の人存りし所と
名つゝと云志波の所と豊後口田と海を隔ちたる村
とも後ろくと云志波の所と前くと云年川と海を隔ちたる
酒場と福屋と十二里と云志波の所と毎年二月廿七
日と市と云此事池田村の記に詳しと云

普門院 真言宗

唐天山と号し志波の所と云十二面観音也行基の化と
云此の所と云佛堂唐の所と云と云堂の精巧なる事
國中才一なる事

圓清寺 曹洞宗

龍光山と号し志波村の所と云 黒田長政の家産栗山
備後利安 如水云の所と云と云寺と創と云 如水云乃
追号と 龍光院如水圓清居士と云稱と云と云
山号寺号と云開山と云茅菴和尚と云 如水云位牌及
画像あり 長政云の位牌と云 安道と云 如水云事蹟
記と云文あり 栴檀と云 黒田氏と云系姓と云 龍光
佛殿の在りし観音の坐する所とありし佛と云 佛座
法元と云と云又口化の雲天玉の像あり

狐原八座

志波村乃境内とあり 大行新岩屋之南と云

金鳥山集雲院址

志波村の内鳥山と云ふ所に禪寺の跡あり再山は云方
和尙と云い寺は三原彈正貞吉といふ人創りけり後
園三宗と仰て大友氏の籍下と成時忠後由ゆんとして
志波村の香山園の迹と通ししと其の迹は園跡なり
一六の村より磐考唯雄の園と源流と成三宗氏より
と仰て雄と村は元来多岳と云ふれはあやまに村敷
す取あまて見まはし首級村切と稱するは其後
忠後に傳るして三宗へゆり時又香山園の側とある
時磐考唯雄一母を園と傳ふと云く又三宗を村敷
一ぬ取と云ふまは其唯雄の園と云んは村切する雄の

首と授けり三宗氏はと成して我の飛少と云ふ事と自ら
悔て出家し三ヶ所に寺と創りけり集雲庵及高郡
極坂の園山正金と稱後の南山竹野郡あり今もその
跡として跡の跡あり今も其は南山と云はなり
も三寺たとらぬてあり一は禪寺也け集雲庵の寺
觀音とい村の高尾と稱してとあり一篤信あり
沙石集雲とい寺と磐考唯雄といふゆり事と記するは事
ゆり又をひな燈といふ紙あり刊のりき書しと總
由依念り磐考唯雄といふ寺あり将人池のなりと云り
と仰るあり住ると雄と村敷してをりつる首
尾といふ明の年飯池の迹と通しけり磐考唯雄の唯を

りくと又射らるる所て是より其方の廻りより
 おそれ雄者の首あり彼将へ家へ去る業として物乃
 竹まけを知りて事成悔死し忽ち發射して僧とす
 池のまにこころと語ひて登臺寺々を造りて建てること
 により此輩同いされたれ又志波村を山々なるに高の中
 と繁塚あり香山の前大屋の側と昔年大なる楠あり
 此楠の根盤十圍ありありてさ中より虚空ありとて延享七年の
 秋人をも空洞の中へ名しあやかりて火と移りたりとてハを樹焚かる樟
 木の根株と名ありたりとていふ香山側にて大なる長樹
 ありとて同くありて山々の事 寛永のころや栗山大徳志
 波村に居たりし時家へも時々出ては樹のまに木の
 上と繁塚脊とさしひとて法地にておける或は大膳

移し出て居りて此側の山へ登りて通つけたる彼石の上と
 大繁塚脊とさして左きり居んと法地にておける大徳元
 より法地の上より加へるや法と法地とありともより法
 測り入のりて大徳と志波とゆるりたる海と大なるあり
 洪水出たる後へゆる事如難く且ゆる民家と立ち入り
 たり時洪のころも山測りて少りなりとて山の前地は
 川に加へる野に上産穀中とていふとある所の池川は
 海邊にも水換多ありといふを繁塚極きて大なるやうに言
 傳へ馬槽とていふとあるとていふは繁塚を伝は
 たりともいふとありとていふは繁塚と事ねむ者の
 葉ととも其日と雨のり洪のりとも繁塚とす敷いなる

火傷と云ふ異出るとあるは、云々云々云々
あつたに、主朝より傳へたる大なる事と云ひし、栗山に居
る人、井次郎と云ふ、云々の事、白石居、後つて、其後、
おのろと云ふ、いづれ、いづれ、お氏の事、傳へ、虚説と
や、あつた、ん、為、云々、云々、説と、記、し、傳、る

天神祠 志波村の東南と云ふ小祠あり、社の側、大なる
山あり、此樹あり、其高、さ、七、百、五、十、枝、あり、茂、り、て、方、七、百、五、十、
と、い、ふ、事、あり、其、樹、あり、并、く、時、を、言、ひ、つ、と、い、ふ、事、あり、と、し
高、貴、院、と、い、ふ、と、傳、へ、り、他、方、よ、り、來、り、る、事、あり、の、事、あり、

惠蘇八幡宮

山田村と云ふ、社家、代、説、と、云、傳、へ、り、 齊明天皇異國と

軍勢と云ふ、山田村、初、創、の、事、あり、 八幡大神と、勅、語、し

山田白鳳年中と、 齊明天皇と、 天智天皇と、 合、を、と、り、て

三座と云ふ、 才一、惠神天皇、才二、敏明、 亦、社、を、その、側、あり、小、高

と、云、ふ、事、あり、南、と、云、ふ、り、上、座、郡、中、の、地、社、あり、九月、十日、

祭、あり、い、づ、れ、共、別、村、と、神、輿、亦、ま、れ、儀、あり、村、の、内、に、居、

と、云、ふ、事、あり、神、輿、と、傳、へ、り、は、云、ふ、事、あり、尚、大、本、に、云、傳、へ、り、又

十月、十五日、と、河、貝、子、祭、と、云、長、園、村、塔、出、池、より、川、塔、二

つ、を、あ、け、く、土、宮、と、入、神、前、と、傳、へ、り、塔、と、出、て、土、宮、の、跡、と

云、ふ、事、あり、付、布、殿、と、云、ふ、事、あり、り、儀、或、も、今、を、終、り、

社、傳、の、寺、と、朝、倉、山、長、安、と、云、天、台、宗、と、云、傳、へ、り、

け、沖、や、し、ら、れ、前、中、せ、川、の、水、と、い、く、横、と、云、ふ、事、あり、長、九、百、

極どけきまきとつと極まうらと海一圃とくまき
田とひ古也 長洲上大庭下大庭入地下庭部
の互々城力凡九ヶ村百五十所余の圃は田とありて寛文
三年よりより一まきと

齋明天皇御陵

惠孫八幡宮の上ある山のかたぐさ石塔あり里八 齋明
天皇ハ御陵と云 齋明天皇ハ朝倉の宮とて崩御の後
天皇の喪にけささく大和國形多河原と殯とて由日本紀
より一入へりまハ御陵多へりハ然とも仲哀天皇と
長つ小巻浦あり殯一動あり後ハ河内小長野

葬奉りしとも尚今ハ長門國豊浦宮も 仲哀天
皇の御陵山とてありけりも亦 齋明天皇ハ御陵と
暫く殯一置ありけりハと云と強し多るやかむため
ハ世々程多し 惠孫の宿と志波の宿道のたよりハ林
の田といふ田も 天智天皇ハ秋の田りけりハの庭とと極
一まらるるといふも説は多しけりとも里ハれ説は
く説ありしと云はれ

朝倉園

山田村とあり 惠孫宿とて小村も此に別 朝倉園のまじ
はありと云はれ又名栗の園といふ瀬川のまじり朝倉の宮
本丸殿ハ皇后あり 附北ハ芥菫の園も南ハけ朝倉

乃宮をて北常といすちむひあし 名のきて敷原
くさわにほくふんつとゆさわの朝倉の案小侍候
すこ此處後所のまきかれば家の敷とてま此園とて
して名をやうらう者と通さるるなるこの敷とてま
めりりいふ候へり

朝倉攝廣庭宮

齋明天皇六年新羅より百濟と夷後一なる原
より救の兵とをせんるを七年 天皇より一なる
あり此河よりまるとして住むか割らるるをあるを
此うをむひひゆへに本丸殿を云々の址原川村の
畑の中より村人と 齋明天皇の行宮れあると云々南乃

方原京の地とて原原とてまつへさるるけあつる村の
内皇后と建へて平京の地以外に平なれハ村民の従さ
もまへしむりハ礎石を多く張りてまじと田圃の後
まへにまきとて取捨ゆらまきとも今も残まじり花園山
猿渡池をとりける蓋流強まじり瑞村の宮野村あり昔ハ
けあ村ひらつありとせつとまじり村とありはは 齋明
帝の行宮あり地とてま好とてまはまはまはまはまは
ありし又いほれ水をまきはし朝園寺とて須川村に枝村
ありむり朝倉寺とて寺も今もま地つらある 是
朝倉の地とてま寺ありあり朝倉とてまはまはまはまは
此地と朝倉とてま一院とてまはまはまはまはまはまは

と云 天智天皇世に於ては、
と云ふの山申す、
殿と云ふ也、
問うるに、
と云ふは、
清の意見封事と考へ、
極天皇六年、
率ひて百濟と、
はくし、

皇と皇太子とを、
と云ふは、
と云ふは、
又云、
皇の勅書あり、
又八雲抄抄十訓抄、
と云ふは、
念れ社を、
風出記も、
四木の内を、

朝倉の本居殿と云作國と云と云ありあやするて薩前公
とありと云と云と云の篤信密に日本紀と考つて一齋
朔天皇六年新羅より百濟と似たり君臣して捕人
と云百濟の福信、又あつて救の兵をと旦と云りこそ
百濟の兵として救の百濟の王子豊璋と向つて百
濟王と云と清の十二月 天子福信、らふの言、さら
せと云つて沖幸して救れ軍と百濟のきとんと思
て先難波の宮、沖幸といひ法の軍と云と云る百濟の
為、新羅と云ると後河ありと舟とけ、せと云七
年四月沖舟西のりて何ぞ海路、つく甲辰沖舟大
海、いり庚戌何たりといは石湯者かやと云

とあり三月庚申沖舟をて千姫大けとあり船名、
りありと云あり天皇、と云と改つて長津と云九月登舟
天皇遷と朝倉橋の宮に在り宮、居あり朝倉の社乃
木と切、ひり宮と造ら此時 天智天皇も太子として
供奉、あり八月、皇太子 天皇に喪と插、ありと
船名、ありとありあり十月船名、河東、と云と云り
日也記、文新、と云と云と 天皇百濟と稱ん、あり
船名、ありとありあり、伊豫の海を、と云と云り
た、ありと云と云、伊豫の海を、と云と云り
新羅の人と云と云、百濟と云、百濟の君臣、因、
り百濟、ありと云と云、送、あり王子豊璋、も兼て

日布く人質として取り居りしより、齋明天皇其詔と
救りんと思召兵船と造りて軍兵と遣し沖自く海軍へ
あり久安ありむしく軍れ命とも下しむらんこと増多の
海軍は不意に異城懸舟の邊をとりぬく事ハ然と海
田をゆく浦りくる朝倉彦彦丸宮とまてはむり元上
佐と四圍り南よりて海軍へりそ物よりハそり行る偏
おしきと伊豫よりおしきわくは政をく山嶺一海と海軍
ハそく浦り政をくは多くの軍兵と連て海軍へ下
りむい百津と救りんと其おんけりしとていふことと
うりし時ありし何の所あることとておしき朝倉の宮
とていふこと久安國を成止りむん事彼の事にはいふは

い事多くきやうをせし海軍はけりしとてある事と古書に
載る事にも朝倉の宮をけりしとてある事とていふこと
とていふことありし事良から四圍り及海軍の地政とてい
はくは時の急なる時勢と考へる事にして梁彦彦抄り
朝倉を土佐とていふこととて書きあへりといふ事とて
いと久安の事とていふこと朝倉の社の事と
きりて宮成地しりむいハ久安の事とていふことなり
たてハ豊臣太閤朝鮮と討んとて肥前の名護屋を城
と築きしりむいハ久安の事とていふこととて七月
崩御の時より久安の事とていふこととていふ事
して救ひ乃軍とていふこととていふこととていふ事

徳合り是と以てんまハ流業れ新倉なる事疑ひなし
齋明天皇の行宮れ址を土民もいふより此中と流り
傳ふことと官船と名付しむりハ酒川宮燈一村とく
りまれり一原と云ふにや上りも云く如和名取と上座
下座と云ふつ新倉とつ新倉と別と云ふは南郡と新倉
と云ふ事と云ふ又 齋明天皇の止まりむのハ船名取と
いふこと流業を望の歌乃何とありいふに馬渡のり
延長式二十心書と云ふは乃難波より上座新倉の宮へ
往來の舟と云ふハ是又新倉に宮流業と云ふは流と云
ふは乃亦新倉の社を延長式神名帳と出さるに名の
地曰名れ社何と云ふ事と云ふに土俗に新倉

社と云ふ何と云ふに新倉れ社と云ふに古來れ流業と
疑らんや新倉れ宮本丸殿ハ流業と云ふは古人の流業と
して今も其意流業と云ふハ之が云ふに日本記の文乃
古來と流業と云ふ人々風土記に新倉文粹ハ雲南抄と云ふ
抄ありてこの古人の流業と云ふ事と云ふへし

梁塵秘抄

新くもや本丸殿のこつりおれ
ぬのつととつゆくと誰と

奥義抄
新古今十七

あさくもや本丸殿の我あさく
名りて流業と云ふと誰と

天智天皇△

堀百
橋乃本の丸のこつりおれ
むらりてぬの流業と云ふと誰と

千五百

ほろろとよみ本丸のてをりまて

朝倉のうらやといふるうへ

西遠寺入道公経

日

朝くくや本丸のてをりまて

あまもも名のるおれうと風

雌経

新古

いとほろろと何々名のるを朝くくや

本丸のうらやおれあまのゆへ 知家

いもつとほろろとゆへ神馬原の

本丸のうらやいそくへま

いそくへあまのうらやまはあま

あまのうらやあまのうらや 源仲

夫本

朝くくやあまのうらやあまのうらや

本丸のうらやあまのうらや

親隆

△市集

あまのうらやあまのうらや

後鳥羽院

あまのうらやあまのうらや

夫本 時しあまのうらやあまのうらや

本丸のうらやあまのうらや 土御門院

又け時の枝村と山西とまはあまのうらや

園と多く其中とまは境内横一丁半長字

是やうあまのうらやあまのうらや

あまのうらや

朝倉山

麻呂良山より小惠後八幡の上山山田村の上り山

又菱野須川の山ももましく朝倉山と言傳ふ一は
限すす云朝倉と名付ハ此を東ノ山と西の方ハ
朝倉と名付朝倉山と名付ハ上座も産すとて
朝倉と云ふは此の山の名とて名付ハ一はと以
て一郡之名付一例多ハ日本紀と考ふるハ 齋明天
皇七年秋七月甲午朔丁巳 天皇朝倉ノ崩と云ふ
八月甲子朔皇太子 天皇乃喪之奉繼して是て磐石
崩乃宮ノありまの夕朝倉ノ山ノ人ノ鬼もて大皇と
着て喪儀と遊祀も元宮を怪むと記さる此山乃
事ハ朝倉ノ一ハ

そらちしを御河と書くと表す也

俊成

朝倉山名を言はれしは山ノ名
名奇 ともわともあまうてとあはれまは
あまう山名を言はれしは

花之

新撰撰

時鳥朝倉とやの明わたり

祝部成仲

夫木 里つらあ名のまねもほくま

為家

朝倉山名を言はれしは

西行

玉吟 山名を言はれしは

朝倉山名を言はれしは

家隆

夫木

南にまはるる升るるくまふふや

都くま羅ふふくくはくわくく海 後鳥羽院

所集

名ふふあり雲升るるくはくく集

あさくく屋され黄昏乃せき

千年川

筑前筑後よりくくく大川あり西國に属する源を
紀後國小國の師豊後玉球珠部より流れて昌部
と流れて且筑後必生る部れ奥より出け部志波のわ
くくくありてく水勢さくんあり尚も流るては後
六千回余流るて七人より凡九別一の大河とては

く水と産してきんれりあり筑前のふれ内上左部下
産部の南と流る筑後とい姓川とて境といけ部乃
上寺村よりくくく川よりくくく筑後の地
ありけ川西國に属するあり漢人と西國より出て奥と
なる夏秋年異多き河をくくくくくくくくくく
て淵とせんより淵河とい川むくくくくくく
あせきとする筑前の内くくくあり
下産部梅田村にては
筑前筑後西國
筑前筑後西國
又筑前く水と
くく田といくくん為くく産換の宿く堰とつさけ川を
とせきあけく水とをり皆是あまへ属するあり姓川を
ふ年川と名稱して筑後川と稱するはくくく港なり

小邊田

正和と西後宿のちりちり小村と菱野村の枝村なり
しりハ子年川はまきと流道一と云傳ふ今ハ子年川と名
く一車敷河を昔此道大川流道一河を今ハ山を
田ハまき河流多て半々海田とある古民耕作すり
人馬の通の成るとき船もて流多ハおとこと織西
れ湊乃まき河田と名一取名つま一やおち田と云まきと
矢とへと海言ふまきハ流ておとことく多かへ一是上産歌
りて船くくハまき河と名又けまき河唐舟本とて
むくはまき河唐舟のまき河と云はまき河本ありとて
とせまて大なる楠の本まき河一明暦二年ハ子年川と

流まき河と云傳ふまき河一し湊谷産産明も大初と
其まき河多なれハあやしむくハ物ハおち河と名
まき河と名し流ハ一舟れ集河と名何智と云の
湊まき河濃水洲股川の正合後川の湊まき河あり
近江ハ半々河湊ありて半乃湊まき河は海まき河
まき河と名河舟の集河と名ハ海まき河と名
まき河古歌一

△神樂歌

朝々々やおちれまき河一網敷すまき

あまの海人といふまき河と名漁人ともあまのまき河一
川と名河と名魚多まき河と名今と名漁まき河と名初

瀬泊瀬も万葉及六帖の書に登少舟と云ふに
此を了らば成るしすもあらん又惠養宿野倉
山の河向ひの小江といふは子年川と云ふ後國
生系部より小江織面音相と云ふと記して小江と云
ふもむらゝ能前能後と云ふりし上座のあつとも恵
養宿のあつと向ひの小江田まで舟つゝ舟を運ばして
織面れといふも一也且て土佐の人と云ふ一は野
倉れといふ一は織面のいふも一はにそとよりそよ物と云
織面の漕も澤しと云ふも一載する如く能前如く篤信
昔年能前名寄とありし一は野倉と云ふことありし
小江小江田ありし事と知ればして織面の漕も土佐の海
を了らば成ると書たり其ころ其二所あるものと云ふ
して古き織面漕能前とあることと云ふ事あやまら
ざる事と云ふ一は能前名寄と載るはよあやま
らざる事と悔ひの事なり

湊川村

ひらひ菅生と書くと近代改りて湊川と稱す又
昔はらふ野と云ふと云ふを世つらてあ村といふ大行事
の社山の側にも所祭の神ハ瓊々杵尊あり江別の山王
二十一社之内大行事社と云ふ高産靈ありと茲徳
和尙（下）富禎要記と云ふと云ふ本丸殿のありしは今も
氏の言傳ゆる湊川村大行事社と云ふ平田なりハ

新明天皇行宮と傳へせむんとして新倉社の本と別
傳ふありあるはけやうられ事や九月の宮を築き土民はけ
巴の東北をきく山と云ふ又た云ふたを云ふ
山は神を祀るのやうと傳へられしと云ふ
須川村の内志賀といふ所に池あり池の傍に神
社を南に向へり此所の神は則志賀と傳へり

け邑乃境内に古塘あり水面長サ百石許あり近宮
六年のころ築けり又村に古き塚ありお並へり南
北方と傳へり山あり窟ありその内古き窟あり須川
村の山乃山と傳へり山乃山と傳へり山乃山と傳へり
山乃山と傳へり山乃山と傳へり山乃山と傳へり
山乃山と傳へり山乃山と傳へり山乃山と傳へり

東に歩つけ谷中を産する草花性多けれど山乃山と傳へり
山乃山と傳へり山乃山と傳へり山乃山と傳へり
山乃山と傳へり山乃山と傳へり山乃山と傳へり
山乃山と傳へり山乃山と傳へり山乃山と傳へり
山乃山と傳へり山乃山と傳へり山乃山と傳へり
山乃山と傳へり山乃山と傳へり山乃山と傳へり

朝園寺

け村の事既に云ふに須川境内にあり山乃山と傳へり
天降山朝園寺と云ふ寺あり山乃山と傳へり
山乃山と傳へり山乃山と傳へり山乃山と傳へり
山乃山と傳へり山乃山と傳へり山乃山と傳へり

花園山

皇居の址 東大社事也や一なる南なる

猿澤池

糸園山下 大社事也社前なる四時水ききん

降葉山

序庭宮の址 北より東に 庭ありて

萬徳寺

真宗西本願寺之属 庭ありて 福澤あり

別所 権現

慈野 権現ありて 一ハ盤葉の社あり 神幸乃

ひまの地を十月十日に祭る

世村の枝村に 山ありて 四方に壇と堀あり 園あり

その中にありて 院内一町半 長岡下 諸ありて 道ありてあり

人の住たりは ありて 今も 詳なり 経あり

湯隈

宮野村の内なるいけいけハ 湯ありて 今も 田あり

ありて 其湯の出は 田に申ありて 下階に 湯あり

ありて 湯隈大所神乃 社あり 大己貴命 少彦名命

ありて やそ 俗に地蔵佛なり 又湯隈のいけいけ 山の上

石室あり 内の庭あり 寺あり 評あり

南林寺 真言宗

(信教大師の作といふ) 在り

育王山と号し 兼沙佛と在り 又いふ 野村の奥山 谷
のほとけ 家ありて 飯と云 南林ありて ありて 初めあり

あるところへ後の入る門をいふ所の寺に外門といふ
内とを氏家もこの内のたつたの傍の地多し今より
庵の名跡もこの門と今二丁許か又構りてり今も構り
て先と名跡あり是と申すは某師堂なるもの寺に
構り某師堂に上り山王権現の社を是に申すは某師堂建
立のめりし時より始り申すもや某師堂にありは此の社
乃境内の姓社なるものにてちよと申すは某師堂なるもの
某師堂事を知り山王事と云ふに凡のやりの事
何れも多し申すは某師堂は傳教大師の化して秘佛なり
縁起の記に依りて傳教大師入唐せんとして持多より母と
申すは難風と申すは危ふりしころの申すは祈願して恙

けり為翁をハ七佛某師と造像を申し安置すべしと誓ふ
始りて風波極く成てけり多し入唐は為朝の後 朝庭
に申すは富彩と申すは某師堂なるもの某師と化しん
として持多より向し用本と尋しし此のよのちなるは地と
を良枝あり白山古山のよのちと申すは能本を方へなれと云ふは
この白山のよのちと依りて依川と申すはあつとつひなる
此水他のよのちと申すは味美と申すは其水と甘くと号し
川に付て山と云ふは白山谷のよのちと大木平跡と云
ふはなる 某師堂と云ふ 本れ申すは金色の水流を申すは
て是れと云ふはあつと切り一れと云ふは斧初より
は白山に窟を造りて一斧之礼して佛と化り終りし物と

け佛無く上座の長淵と云ふは後教の告す事なり
長淵と尊ゆれりて林中に彼佛を云ふ所を寺と建
て安置し弘仁元年四月分用堂をりて著し是れ佛告
曰我を南の林とありけりて其を南と号し傳
教の云々寺をれ天台宗成し後けりて住持仁能
阿闍梨と云傳有慈本阿闍梨と寺成法成んとす
慈本出家と號し隨處に仁能ありて後事と歎
る仁能より才は禪僧立教宗本首座元朝とあり
七年ありし仁能より眼より血の涙と流す事あり
又たりて神を向事ありて神報し長淵と名仁能
と對面一寺の僧徒及と所の民とも集て云々

慈本と號す寺に後事恨多し長淵と名なり
本首座能阿闍梨とありけりて寺と號す事と近
く仁能より才は禪僧立教宗本首座元朝とあり
七年ありし仁能より眼より血の涙と流す事あり
又たりて神を向事ありて神報し長淵と名仁能
と對面一寺の僧徒及と所の民とも集て云々

先國
の後あり

主 忠之の付命ありて志言宗とありハ坂某師の縁記曰
武藏守と藤監代と云長者も老てみせしけ佛と祈り
くらく其妻やと懐胎して子と云じ其のあつた付産
上く其妻と交凍ませくらく驚忽りてけいふとつこと
産部長岡村乃某師れ側なる木本のうへに葉とかけら
はくその其妻とありんといけるに産一たりといわたり
は老翁とつむく抱きぬりえより老とありて子無うぬ
夫婦ともく別某師の恵とありて悦て是と云育らく其
子ある事玉れぬ一年知す付を此の農氏の子と友
ありんとすもいもいへる言をぬ驚れ人の子と
ありて交らるのせりしは彼子と云とちさくあり

十三歳の時言れ父母と救ん為り長岡の某師と百らるる
母の時言す流の表乃老しゆ父ハ沖某師の武藏と住ら
夜監代と云者こけて母へと云老しんを告ぐはて老
父母と懇とえてりて夜監代ハハ夜監代け子驚り
さして死て後十二年と云まうとて十二年忌概はら
折言ありは彼子けらるはと信をいす付彼子驚り
つらまじり付言りし者夜と告父此師の名を喚びと
ありけれは彼師母と呼んてんをくらく疑りあり我哉誰
ころ衣ありと云々也ハ相ハ誠と我ありと云く悦ひ合
いけりといける概く長岡の某師堂とありて建立し
けり某師の南ありと今此地は後をすハ前と云る

中頃
長岡ハ今福成村あり

鏡石

菱野村の内を越え去りありて高き山ありて角ありて
石に西を割れありて其西光ありて鏡石といふ事
席田部金澤にも鏡石といふ事京都金園寺の山に泉は
鏡石といふ事此の石ありて人れ銘うつる記伊國名草部大野
庄幡川村にも鏡石ありて高き山ありて西を
鏡の如し唐書にも記す事ありて成都記に瑩徹如鏡とい
ふ事是又大なる石の事ありて杜子美も石鏡の詩あり
又此村乃西に大なる池田ありて一所平澤ありて
事計難し今其池の中を石と入く田と化す

鳥集院

ひう鳥集院といふ寺ありて此村の名といふ今も礎礎と
りいふ事ありてやすすは記され境目ありて及上大
庭ありて邑昔に宮野村と稱して一相ありといふ

大庭村

上右庭下右庭と有村といふ上右庭村と太刀八幡の社を
祭る所の社を別八幡と稱す九月廿五日祭れり此の
所も鳥山何某太刀と納しゆへ太刀八幡と号し其太刀
と納しと云傳へ神前よりたの方十間許と云の名
とて強きなり又此村と田とありて極二つあり一は長
九間一は長十間と長さハ万治の始よりつてせり成
村も大なる極ありて又河と出水をな極て冷く

各々ありてなすて湯のほとけ部西の境を下たる石
成村なり

長瀬村

和名抄に載る上座部七師の一名に河原馬牧四ツ
三ツハ大川の申すもて崎のほとけ一ツハ地はほまうりまも
うらあは平地に是ハ馬常りあてふとらじ牧も
あは農人の耕化のこち飼へ馬と野飼のこめ登ハ
おらねちあつあくちを村もとねらる牧を長
瀬の牧もいへるまじとて又河貝子出池とまはる
六人恵換の懐まのあれの付池より川塔とて誓
おととま又い時といはれ茶師のそと丹寺地もとも

まはる茶師堂も
以後茶師はあまし
り前とらる

入地村

印鑰大明神の社もあつたの神に座中と右を女神たハ
男神に毎々天十五童子の肉と中禰もあはけ神を
いへるあまじと後世浮屠氏より名付くやいり
むり十月初午日あま今九月廿六日祭とあは又
昔々十月初卯恵換宮あれのち長飯社の初官
けさあまり神事と勤らる事とていり又山王の社
も始はあまの叢祠ありしハ神事とても行なは
毎年十一月初申白神酒神食と供つたところり物
正保四年のいり村中の牛馬伝は熱病とつた

死あり事ハ九年の百二百年定より及り諸寺社と祈
ふとももを候をし 国君よりたつるに成助けあり
て田圃といふはこれに以て村人古賀右衛門 時の農社人
此七帝といふ者たつ山王と云ふハ牛馬と狹るきこと
其後と云ふは明暦元年と山王の社と建立し九月
十日より神事と概ひの神樂と奉ひ日林の儀儀來
て社と入る邑民いふ信也と云ふて昔のころは
牛馬と云ふに死する事と云ふ儀と儀と事夜と云ふ
よりと云ふ毎年恒例の神事及四時と沖供と云ふて
此の事云ふは

久長宮所

是より南を後田河御及久長宮所の山側と
是市村の境内あり是市村に在りては南側と云
久長宮といふは南北に村に久長宮といふ村
あり

山王社

久長宮といふ村爲の言傳へしハ 天武帝白鳳年中
と山王社と古賀村より上野といふ所に勧修し二百余
年彼地と稱するは 古賀村に
其四路あり 其後久長宮より
よりと云ふ天武の沖時いふと山王の号といふは
いふ久長宮といふ市古賀宮といふ四村に産神といふ日
あり

古賀村

古賀宮あり村ごとくとも一村の如くはるむり久壽宮の
東より夕月より西に夕月大明神の社あり社村を造
りて今ハ浦山といふ所なりわね神も夕月と福
座神も一ける所とも夕月大明神といふを神号詳を以
九月十日ありとも亦研名をいふとちある名も二百四方
かりありて方ある名をいふとちある名も二百四方
あり研あり河津の山人難刀禰と砥刀と砥石を以て

池田村

池村の枝村と把波と云はるを把波と源順初名抄と云
る尚那の御代名と把波の御代ハ林田星丸池田徳政
久壽宮ありとも云はる池田枝村と云て云はる把波

二河大明神の社を把波の産神之所祭れ神曰産二
産ハ女神之此内一神ハ沖母なりいふも神も也神号
詳をいふ又把波の御代と云はる社とも山宮に凡藤前
乃内注者大友家祀ありし此の神社と云ふ藤
耶藤宗ふとありし一付若大とわける焼くしゆと
高元文書ありてこのくを故実と失へる事多し
け社も云ふ藤と焼くしゆと焼く無つて今も終
たり社に川と迫しを年かゝる所と云はる二月朔日
初あり二月廿六日祭あり いりハ二月廿六日祭あり
一切書く音曲徳と書ん今ハ
と云はる社と云はる田圃の中とて榎垣の坊ありハ
と把波の市と云はるも田圃の中とて榎垣の坊ありハ

とていつのびくろをたんに長きまうりつとて代繁山人後
志波の所と盛んよきんとして志波の市とつらこれと
鶴の依て志波の市と把波の市といふ毎年二月廿九日
市と神と呼ぶといふる廿七の市盛なり商人の仕也
成るをこの二月二十日ありて市銭をこ又十月廿九日
とあるは十月廿九日祭ありておませりといふる世橋社
息川の神をそへてたあるを喘息と病といはれ
といはれそ病いゆるとて方よりありてこの病を悪俗の
ありて今いふる人馬にそゆ事社四所あり

宗坊寺

池田村より小松を盛公の創とておひ寺といふとこの

てそあとのとゆきりおそハ歎言たりしとて村より
梅林庵と云禪ちり後一並行の因法して秘佛と

仰目原

林田村より小塚を茶田の町とれぬし是ハ 長政
么入国の後國中巡見の町といはれりおひをまをえ
むんじむひの村人井の杉をといふ者依り塚と榮
き其よりやうてえぬやうと振るる 長政といは
り此よりききあり依て村人仰目と榮と名づく

野手八幡宮

林田村おねといはれり初め星丸村と稱すし
らりて此地にまいてまねいりていされはて

貞享二年との河に接しあり星丸村昔ハ四ツ子村云
 ことより星丸もふ長政公の時繰使星丸もあせ
 一と云る星丸と稱して四ツ子ハ稱を以てあつたの神
 中殿ハ八幡大神右殿を神切皇后左殿ハ五依姫あり
 大山池田村田益系惣役の産神といひ也把波大明神と
 も崇めいひ八幡も昔ハ大社とて侍りしと云これをも
 大友宗麟大とて侍りて焼きたる神室重寶鳥有と
 ありぬき後彫く再興さしむるの形をかりしと
 及久々年中七夜もじ大祭も縁く
七夜祭の祭といふ月々
 祭三月 枕祭祭八月初九日 祭生九月廿九日 祭例の祭を
 十月 初祭祭十一月初九日 祭今今星丸村の田字二日月田二月
 田三月 田沖田字といふ祭をいふ一への祭田なり

九月廿九日神幸あり規式もあらずなり
 此神宮より一人の末として十二家池田村田益系
 大山星丸の各村と尚残して七家あり毎之がさうを
 多る祭と稱す又此社の前ある庭の例に杉松といふ松
 ありひりハはひりり彦山と遙稱せしゆ杉松と名づく
 ことにも彦山といふ又ことにも杉松と名づく
 乃兼つとすうといふ松と焚て照しえり時をさ病いゆり
 として法人に本例ありて刊てとる者多し

比良松 上下二村をなすありあり高野村と稱せり
 々ハハ村とも昔ハ平松の字と用ゆ寛文元年
 より文字とありしむ

下の平松町乃御庭と杉樹をさ枝四つとあり平松町

沖磯所の址
 ともあり

少くも所のあつと安松と称し、主側りたるを是と夷之帝
殿と稱するこの夷のふもと極一松ありて

上寺

ふ年川の向ひとも村に上寺は巽の方川上の方今泉
村も南と清下村も川下北方と小川村も皆流後の内多
流前の内川向ひとあるは一村は村の東南と古川の流
とともて地じきし一は地別田とある南北と土堤もて
今も残せりしむ一は河をふもす川の流もては上る村を
大川も少くもて流前の地つもりあるはさ川と境と
して川の南も皆流後の地ありしと川の北ももてん
流も上り村上寺村の少く新川をきてえの川は陸あり

漸く河よりて田もあつ少く一は村川より少くもて
も流も川の南もも流前の地とともれ流後の方と
入こも唯一村流前に地もはけぬこは村と水田あり
皆圃あり河内接はる流川は東ありもかやうの雨も

室珠山村

岩屋山に社権現の社を在村より一里谷路とあり村
俗も是岩屋山権現に母神ことしは社のより極て
大なる園岩も其より社もぬく岩屋権現と云宮
地も南向の社のより極あり極同堅こもも洋
殿の中と室珠もも園立園も人許もももを昔
と以て厚くおとり其もと積もる人ぬおのとし

け宝珠石をくまの村の名を以て古き棟札を徳治元年と書文字ありて久しきものも余ハ漫滅しと建り所の人は姓もよくし其社顔破世と云長五年 長政公の家臣中間六郎重光大に統胤建之に又その後寛永九年 忠之公の家臣後藤重光等無門建之をより末社七郎をその内 然野権現の社ハ岩屋権現の右と云はる又大石山下産れ内社と云いしものもこの所にありて昔より後坊六郎重光と云ふ二区ありし山伏いふれ事と云ふい岩屋のまじり給羊出りしを掃くけ村のちと大石事の社ありけ村の産神也と云社の前とて宝珠山乃川鼓の川

一つと為合て福井村と流き入川とて谷う淵と云淵も大石を以て其内釜の形なりやくちとしてと流さるり難し凡け村ハ深山内と云谷ハ長き事三里余福園より十万里を以てても風俗言語さりと残りけり山の形他何とかりてとるなり

鼓村

宝珠山の枝村あり物も谷と異て鼓村ハ長き谷とて民長何と多し利村と云はる大凡け村の釜と云ふと産り谷と云はる中崎と云ふ事二里ありけりし後り漸敷中崎と云はる九十九漸と云ふたれと云ふし産り谷と云はる最上と云ふ中崎ハ最下

地増田郎に近し

こま磯と深山幽谷の中へ福井村はけりりこま
中流と石山とてはる敷村と空珠山のりた山
とて空珠のり山とて勢うり又敷と空珠山と
のり東北のり岩多く深へてけりあせりこま敷
すりこま敷とて敷滝とてけり瀑布まゆりこま村の名は
敷のり とてあせりと寛文十年 國君より高取氏
五十嵐氏も人の陶とせき一壺と陶とせやく今こま
とてあせり

花園滝

敷村とてはる空珠山とて其のりり流す出る瀬ありゆり
美室の瀬とてはる流す出る瀬ありゆり

敷れ滝とてけりり

砥有

け村ハとて敷村の枝村とて磯ありゆり砥ありと名付り
や又谷の側とて岩崖あり口廣しと勢を下り流りと云

合樂

空珠山の枝村とてけ村の内梨木神とてけりり合樂
とて敷すこまとて同十所流す流す山とて敷とて空珠の
口田部流す河内村の内鬼田とてけ枝村り谷流と合樂
あり空珠山とてけ合樂とて一里余合あり又山とて
りゆきをこま足少り岩とて圍境 後空珠山 釋迦堂大
口岳ありけ二山とて山とて其のりり系り岩あり峰

て英彦山に接す

のう七つ宮り路の度と云人評左者ハ言さ瀧あり
極めて先しそ先し爰約り見つると云は山臥の海
と道けりくして爰と見ると托の事ありつりさけて
ありてとて世程里れる奇名怪名はくたり又母本殿と
り其義系言はく西館し山上陰路ありて平易と云
雖し又爰約り見つりくり鞍村の苑園の滝の方より
乃と望の窟と云はく乃と岩れりくり乃と窟あり
と云今を亦と云くり南へ向分谷と云くり乃と鞍羊と云
其後日田郡と谷川と以て衆と云南へ川より其後日田郡
勢河内の枝村鬼田と云くり今東の氏家と鬼田の氏家
とを向四丁と云くり山臥越て他國の方と云はく乃
他ありと多し

黒川村

佛谷乃南と云る村は是又海山幽谷こそ谷乃佛谷
と出つ依田といつて谷中長しといふ村より上の方より
人家あり岩山と云山を彦山権現と勧修寺とい
岩山とて上宮下宮と云むいりハ大社ありしりや彦山
坊の地とて沖館と云はるは是く川をこしとて黒川と
いふ所村の名と云情中抄と云川と人をもんくす
み深の衣れ袖と云くり後と云はく黒川の事と云
依田と云川の名平岳といふ山あり

小石系村

秋月前浦村より谷戸と五里せうしてゆく奥に
邑之所を赤部赤野村とも呼ぶとせうして
此地より彦山の方にも長谷と下り鞍村の方にも
下り長谷に凡い河を四方より合する峯ありて
高し四方を望みしより伍田村宝珠山村を
幽谷よりも尚冬は高きく雪ありて秋月より
りて四里の間に谷せうして山ありて河より
て都て殿座を境地あり深山の奥に
い谷ありての奥に流るる河に
彦山と切をこ本枚子と多てゆりて
賣り町より八所

許平と没行者堂より彦山の山伏修りしより
堂よりその二所をわたり前なるを
れより守りしに之をさし
と安置す又柴火宿して山伏の宿
竈門山乃麻几者の敷あり
麟耶模のふとあり彦山と
一坊政所防龜を坊神輿とい
腹と切て死しなる所
彦山と遠原する河に松の
りり彦山下をさす
境より十二所をわたり彦山

と云秋を六部系多き河之長谷れお葉乃山十系のつ
あり昔前居今をいふあてをとりて小石系村乃西
河川のせりて塔の跡と言ふあり石れ塔を氏信を塔西
れ為朝母の乃りて立られり塔といふ 塔の跡は小石系より一里
ありあり氏十ニあり

兄弟岳

小石系村の内より山依の河謂嶺西九号の嶽の二つ

中野

小石系村乃枝村之谷より小石系と流るる谷とい
れの名に中野系の谷と云れ陣屋と言ふ小石系より
十五丁より方より本山麓より此河と天和二年より陶工
ありて陶器を造り肥前伊万里の産物と云へり

佐田村

村氏の言傳より安陪貞任流るるまで云ふとあり信を
いへり村乃名と貞といふ流るる佐田と云ひいへり貞任
より貞任十三代と現人神と云ひ本像十三代より廿三
の孫太郎専當と云ふ今代唐島に其子孫といふ相傳
河部氏の若十室家今より又貞任の産神ありと云
相傳大御神と云傳流るる社より貞任の子ありと云
と云ふ人の墓と云ふありと云ふ貞任の東國と云傳死し
古今著聞にも貞任と西國へ流るる云ふと云ふ後裔を
東國と云傳せり云ふと云ふ西國へ流るる云ふと云ふ後裔を
て云ふと云ふ佐田より唐島事流るるや安陪氏十
二月流るる流るる云ふと云ふ二月に用さるるその

子孫其例とありて今も一月年繩年本と用ひん
と云佐田の村より一里上り田代と云枝村より氏家三
十軒ありたりと云まこといひて極て山ありて
況や又一里上りてあまのひりて田寂多る境地あり
佐田と河川の境に山あり海と云佐田より山系なりと
著立多て天に初ありと云とてありの社ありしり
著抄あり

い村と云の事此社も大の事のふけその田前と云より
山ありての社も末社といひ上産部も是なり乃其地
ありとてい村と云の事の社も一は是なり乃其地
ありとてい河清氏十二代の本像もいやりたりと云

あまをりけ社の前と云あり榊樹も其間五圍一と云
すま後と連理あり大夜よりして覚夜す

崎山

佐田村より上産部申とていときき山と云大友家と隣
耶蘇家とあり多く神社佛寺と焼拂ひの寺あり
の産主と改しと産主いひとて辨りたり産主の城と云

佛谷

佐田村の枝村に佐田より一里ありて枝谷の中とあり
とて河の側多し一里あり西の入りと通堂とて榊あり
堂と云るハ佛堂もはまの人の堂の中と云りかくの如く
佛堂の内と云るよりとて海ありて他とハ掃あり

堂の内を身代と云ふに十王の石像十體及之地蔵と安曇
以本佛ありしを身代前に入ると云ふに佛
ありしを佛谷と云ふに凡て山申清流激湍と云ふに
雲霧すしは田佛谷のありしを山に雲霧すしは田中
一に松樹ありて根をさしきりて長き八十七尋あり
を身代と云ふに切きて大木掃こ山に雲霧すしは田中
ありしと

徳坂村

是と云ふに東南のありて豊後境に村あり豊後の境目と
七十九尋あり九尋あり徳坂二里又徳坂より肥後の
河と越へて豊後生業郡吉井二里あり

園山正堂寺址

徳坂村の内をより是に原澤正貞吉開基の寺に其
事前六金烏山のありて詳し記しありけ寺を大友氏焼
きし後再興する人なく今唯礎のみあり

河蘇大明神

徳坂村の産神あり肥後の河蘇大明神と勅傳せ
しと云ふに社を村より二十丁餘山の奥にあり則ち河蘇
河蘇山と云ふ一岳二岳三岳と云ふに高き岩山と云
ふに三つあり一岳と云ふに大岩あり長一里あり
則ち河蘇と神傳と崇りあり毎年二月ありしを
あり神前と云ふに井あり元禄十四年尚里の農

長谷七と云者神と教ふ志ありて村民と語ひ是と建
額と云良山の産主と云書長七ハ先祖より相傳り
て此村の長と云其父順世乃至七其人と云り欲く
慈孝ありて邑民といふ法民の骨よりなりと
公儀と勤心自ら農業と云て是と云ふ人其お苦の
多し長七と常と讀書と好し凡民の後考といひし

赤谷

此村東山の方ハ山と云て教村と云一是又赤谷里に
南ハ長谷と云竹と云河上瀑と云水は河にあり
赤谷の水は長谷と云星丸と云林田村と云龍後川と云
赤谷と云星丸と云河谷乃内と云星丸ハ赤谷の下
乃正面と云林田村ハ谷と云離と云産と云河と云村と

福井

寶珠山の下流と云河口谷と云村と云地長と云事
一里と云り寶珠山の下のと云是又河川の内
と云村と其下と云則豊後境と云寶珠山の北鼓村
の水と云寶珠山の北と云大行事社の北と云一と云
合て福井と云は福井乃谷中と云と云豊後必吉井
と云は福井と云下福井と云と云河川と云入鼓村の上と云
と云谷と云福井と云谷中凡九里と云下福井村一里と云
豊後境と云ハ三十二と云あり

龍前國續風土記卷之十終

筑前國續風土記卷之十下

下座郡

林田村神社
相久保川
三城渡
矢竹村
くさ寸塚
七天神
藏園邑

貴野大明神
堤村 大堤十三塚
栗尾大明神
帝釋寺嶽
俊寛僧都墓
屋永村 十三塚
富永村

礼拜村
長田村
鬼釜
小田原
對面所
小隈村
栗原村 十三塚

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 筑前國續風土記 and 卷之十下]

林田村
山見村
田代村
林田村神社
林田村
山見村
田代村
林田村神社
林田村
山見村
田代村
林田村神社
林田村
山見村
田代村
林田村神社

薩南國續風土記卷之十下

林田村 下座郡

此郡ハ薩南の南に臨之郡の形東西廣く南北ハ狭く
南の方及東申ハ薩南と隣りて少多川と東とハ宮野
辰こハ上座郡とさういハ相原郡と隣りて郡中
川流多く水田多し土肥く樹植多し餘りありて
桑我ゆりありはととも薪蒸之りたハ民俗朴直に
下謙遜あり

山見村 田代村

林田村神社

林田村とて社家ハ説スハハ社則定長式に載薩南

十九神の内英奈本此神社ことひり言傳ふ所あり
神中間ハ大己貴命東向ハ素盞鳥尊西向ハ事代主
命こと云今案あり定長武神名帳ニ下座初英奈本
神社ニ座各神社家又傳へて曰けニ神 神切皇后ニ
韓と退治一五時冥助を依く此河く祭りむと云
事代主の神靈告るし事ハ日本記より傳ふハとも
あり宗像神社の縁起ハ神切皇后は下河見子と
集く城く怨怒と欺き亡く玉ひに多ゆへ塔塚と
云く人へり長田八重津津淵上畑中村片定務ノ本
林田ノ八村と官邸と号し此河神と座置くありぬ
定長武もことより本社とあるゆへひりハ宮河の境

内方九丁ありと云く今ハ田ありてニ境地廣
くはひりへの惣門を上畑村と多しと今程そ名の
跡ハ河社より三丁より隔てて居れ立一址あり
秋月長門守れりてハ神倉三丁寄附と云今も
神倉多し祭ハ九月廿一日あり神輿渡河あり河
上畑村の田ノ中とあり社あり三代宮祿ノ清和天皇
貞觀元年正月廿七日從五位下義孝宣の神と五位上
と授むありと云く又ハ那良村栗尾明神の社
人ハ栗尾の社と以て義孝宣神社と云義孝宣といふ
里より林田までを去るは林田の社と云く宣の社と
いふ事 妄説ありと云されといふハ一村のち座一

山城の小野を境内二里餘あり粟栖野を本邑より
三町ありき一木列津金部國分のまきう山田村の
あうりて河原とく大野といふ郡多し一其奈富村の程
をまき河原とむじうより義奈富神社といふ一八布七
之の事ありし且林田社の方古き神祇も極く古
ゆきと美事行くとすくまきと定まらば必道理
遠くくこら多し故に古河も偏聴生姦といふ然
まは今其是述とすまき二社の所と道是は侍り
あふれ後と言ふて後うきも道と疾し一且
是と用り人其心公正にして和曲なく亦明きよして暗
昧なき且古今れ所業と能考へ知むる人あてはる
る是は後のわざとすしてこらと定まらば

貴野大明神

是述とすつらて如きく一況亦其心公明あふ
且其信ありこれ其政とく和らけといふ聖言も
る是は後のわざとすしてこらと定まらば

礼拜村

古賀村の内津社系といふに松尾明神の社あり元
和のころ肥後國菊池郡古賀村に松尾大明神といは
る勅詔よりいへ其聖大明神と号し九月廿九日あり
け神齋病といふ治しあふて杉野すまのまき一祈
願すまの海鯉といふ

古村中礼好橋といふ少き石橋を信家といふ傳あり

傳教大師より一よりゆめの時海よりて風船と色
危るより付く甲の初念一と名をくゆめをハ七佛宗
師と彫きんと指言ひて辛やしてゆめをり 平城天皇
乃清宇風船と色一付の初念とけくせんをり 朝
りてゆめをりちりり時く表須部古河山の峯よりあ
りて雲をきりぬひきりぬハ傳教斜をりぬぬ
此橋の上より一歩之礼して彼山より堂り佛像と色
とて杖と求りしりて是と礼物橋とより

相久保川

お久保あり其流より上彦部修田及馬川より出る系
宜と云く其流ぬえありけ川極念村の下

より極念村の上よりてをり十五丁許の下十月より
水より流る三月より又流る事きりてしと上
下の水流ハ空河の流る蘿蔔の根盛るありありハ
水洞春大根をくぬありハ水流る取里信孫して羅
若川と云えありれはる水のつらぬもりありは流る
宜あり其流あり事之初念初念内村もりのり
なり川より流るありも亦あり其流る河の田嶋
水と云村より川より水と申と流りありて
水あり

堤村 大堤 十三塚

い村の下大堤のりりり大堤より西より三方のりり此

堤を多し村の名を其堤と今ハされ堤といふまじ
け村のたそこれ側と十三塚をさき道の田島乃名とも
十三塚と稱す

長田村

此道より年川の鵜釣舟多し鵜釣師をいふ言て鵜釣
とつひ年魚ととも古ハいを鵜釣舟多し明暦乃
うめうめいささうしりハ漁人たある瓢箪と背り
ほまてあうると水は浮ひく右の舟ハ鵜釣と二三匹
或ハ四匹鵜釣とつきく是ともら流すといふといふ
りし今鵜釣舟ハ漁人二人乗る一人は物と置
釣或ハ六匹つゝ右ハ相明ともらたハ鵜釣といふ

しり舟あて遊て物とをいり何もを舟とを
あもけよ物のるくあつたれ物繩と狭と其あ
その物ともた右上下と遊きり遠よといふも其
繩ともいふ事あり誠とあ巧ある業ハ川中産
きゆハ舟と並る事十艘或ハ七艘三艘といふ
舟れともいふてある遊とあるハ海をてあて
ある凡舟のまきり高し物或ハ三つと或ハ浮ハ能希
いりあるか上産の上寺山田下産の長田のこけ外ハ
あり長田の舟を多し能後よりも何とも出つ凡物舟
漁すり河上産把岐の後より下肩れ遊といふる肩の遊
と長田より下より言來ハ初より舟とハ育月

あ

矢野竹村

け村の枝村角枝と云河の川北端より山々矢野と生
けあり村の名とも矢の林と云やけ村の内砦板系
と云河の山北側より大穴を其口方より斗橋より入る
十丈許りしてさきとせりさ河あり方と叫びて入其
其ハ隙度一其穴甚長一其ちくくして入る其の
為りてゆりささる河と知れに口より入る村松樹とも
して入る穴の内橋橋を多くして礼祀し雨と撲り
り傳りて人と伝す一其多き事教と知れ穴の上ハ
則し穴の口北より下り百餘りささるの石と山上に

ふりハともあり人具とを稱して鬼窟と疑ふ
是より一へ金と堀一穴あり

帝釈寺嶺

荷系村の境内あり上座部依田仙谷と稱するにして
彦山より通あり巖をて山下より八丁許り峰と
系店ありむいハ高き山帝釈寺と云寺あり
と云今寺亡く唯地蔵堂のみ残り又寺を
彦山権現と稱する河を凡け峯より遠くゆり
筑後國目のもありて高僧景あり

小田ノ系

小田村の西より眺望あり小田ノ系と号し南に十金丁

東西四五下津も野子穀種お難く野あり圃ありて
こふ平地ありけ原も山田村一本平地の三村に境内こ
ろもす塚

小田村の南より北に耶蘇の徒とありしにあり

佐寛僧都墓

平塚村の南竹林の中古墓あり是と佐寛僧都の
墓と云物も是も佐寛の塚に犯る佐賀の所れ西水
麻濃の店に浄土ありと云いけりハま下れ縁の古
ありてありと云ふハん佐寛と尋て流黄の跡下
りし有玉り方と投し倒して後と云後々の塚筑
後の山小村ありと云ふハ年ハは是れいせしきり

対面河

属永村の成亥六下より三方冷ありと云
河の方二下よりあり城のこし一方を川之太友氏け河
はては下れ徳將と対面と云ふ其と云の園ハ
太友家申り法士の居りし河とて宅乃址跡あり
此河も太友家乃徳館と稱へし河あり

七天神

属永村と天神の社七ヶ所あり是と七天神と云

属永村 十三塚

村の成亥れより有此村と惣惣三所控現あり

小隈村

小田村

邑のわらうとちさあろたき丘ありま上塚のこゝ
平名より控現と号は社あり古塚あり

藏園村

け村の田地は中と麓は小崎村の田二丁塚と御て
麓あり内より礼世の時やうと入礼ましあま
今よりありてありと

富永村

富永村白鳥村村所きてニッあり今白鳥村も富永
と属して一村とあり

素系村 十三塚

素系村の上乃系あり今十三塚より凡て郡中

十三塚三河あり

筑前國續風土記卷十之下終

